

博物館周辺エリア再整備に係る町民意見募集の結果

博物館周辺エリア再整備基本計画について、町民の皆様からご意見を募集したところ、36人、1団体から、ご意見が寄せられました。

ご提出いただいた意見等及びそれに対する町の考え方は、次のとおりです。

※「意見に対する町の考え方」のA～Eの区分は次のとおりです。

A	意見を受けて基本設計等に反映するもの
B	基本計画等と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	今後の施策の進め方等の参考とするもの
D	今後の施策の進め方等の参考に取り入れることが困難なもの
E	基本計画の内容についての質問等

※ご意見は、原文のとおりとしておりますが、一部読みやすくするために誤字・脱字等の修正を行っております。

1 博物館周辺エリアにおける施設群の整備方針に係る意見について（39件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
1	計画に賛同する。 (同様の意見 他2件)	B	「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。
2	アースギャラリーの利用方法（通年利用、飲食、休憩等）を考えてほしい。 (同様の意見 他4件)	C	「第7章 施設計画 7. 2. 5」に記載しているとおり、アースギャラリーの施設機能として、休憩施設（トイレ・飲食提供等）としての機能を維持するとしております。 また、アースギャラリーの通年利用に係るご意見については、参考とさせていただきます。
3	恐竜館－図書館－役場－銀行－郵便局－商店への道程が近く、歩行者への配慮も考えていただきたい。	C	今後も引き続き、歩行者への配慮を行ってまいります。
4	現在のように外でもくつろげる場所を意識して作ってほしい。 ※中村記念館へのルート整備をしてほしい。かせき学習館の収蔵品を活用してほしい。	C	「第6章 整備方針検討 6. 1. 3」に記載しているとおり、ガーデン（ライオンズ広場等）の整備方針として、新たな博物館と一体となった機能の向上（休憩機能等）としております。 中村記念館について、博物館と一体となった運営管理体制の確保をしてまいります。 かせき学習館は現在、化石資料の収蔵庫として使用されています。整備後は既存機能に加え化石標本を学術的に観察できる機能を確保してまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。

1 博物館周辺エリアにおける施設群の整備方針に係る意見について（39件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
5	かせき学習館について、収蔵化石を保管する専用の倉庫化すべきであり、化石の観察機能は現博物館や野外博物館に分散し維持管理の省力化を図るため当館を廃止する方法も検討すべきではないか。	C	「第7章 施設計画 7. 2. 3」に記載しているとおり、かせき学習館は資料の収集・保存機能を中心とした整備を予定しております。 現状の研究機能を体験学習棟（現穂別博物館）へと移転し、それによって生じた空きスペースは、化石資料の学術的な観察場所として活用する計画であります。 また、野外博物館は既設のモニュメント等を移設し、太古の森をイメージした整備を考えています。
6	野外博物館の計画が明らかにされていないことについて、「発掘の実体験」⇒「化石クリーニング体験」⇒「展示観覧」というように、調査発掘から展示までにストーリー性を創り、化石発掘の実体験ができる野外博物館を本計画に取り入れることで、子どもたちの化石文化への創造性を広げ利用客への認知度が上がるのではないか。	C	「第7章 施設計画 7. 2. 6」に記載しているとおり、野外博物館ゾーンは、太古の森をイメージし、生きた化石であるメタセコイアやイチヨウを植え、植生を回復させ、大型モニュメントは、新しい博物館との一体的な活用（移設等）を予定しております。 また、野外アート展等での活用も予定しております。 加えて、「第7章 施設計画 7. 2. 4」に記載しているとおり、ガーデン1（体験ゾーン）の施設機能として、化石の発掘ができるスペースを確保することとしております。
7	ガーデンについて、展示棟がガーデンに囲まれることでその姿が浮き上がる。そのため深緑や紅葉、樹木の選定や配置、あるいは樹木群と芝の面積比も重要である。また、遠くの穂別の山々や近くに見える森等、自然の背景も利用した配置を意識した作りが大切ではないか。さらに展示棟の形や外壁の色合いを工夫し、夜間のライトアップやプロジェクションマッピング（非常設）を活用することで棟のイメージが際立って目に映るし、日中のみならず夜景のイメージを利用客への印象づけができると思う。（再来意識の向上）	C	「第7章 施設計画 7. 2. 4」に記載しているとおり、ガーデン2及びガーデン3において、デジタル技術等で海と陸の古生物を表現するよう工夫した整備を進めてまいります。 また、大型モニュメントは、新しい博物館との一体的な活用（移設等）を予定しております。 ご意見については、参考とさせていただきます。
8	ガーデンについて、メインストリートからは展示棟の裏側になるガーデン3のコンセプトは南側に移し、展示棟をできるだけ北側に配置する。 （自然との一体感）A案C案以外は現博物館の横に展示棟を配置する案で北側に緑地と駐車場しかない空間だけになり利用客にアピールできる素材を無駄に思う。穂別大橋を渡りメインストリートに入ってくる利用客の目線に移る展示棟のベストポジションはどこかを基本に考えるべきではないか。	C	「第7章 施設計画 7. 5」に記載しているとおり、A案及びC案の展示棟（新設）は、高い位置に建設されるため、存在感が増し、シンボル性が高まる案となっております。 ご意見については、参考とさせていただきます。

1 博物館周辺エリアにおける施設群の整備方針に係る意見について（39件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
9	<p>アースギャラリーについて、「繁忙期等の観覧者の休息機能など、博物館等を補完する機能の維持を確保」とは、繁忙期以外は新展示棟の交流スペースやミュージアムショップ等で普段の休息機能を確保するということになるのか。</p> <p>当館は常設としての改修計画が示されており、補完施設というよりはむしろ休息・レストラン・ショップ等を充実させるなど機能の明確化を図るべきではないか。あくまでも補完的利用とするのであれば現状維持的な修繕に止め、冬期間は閉鎖すべきではないか。</p>	C	<p>「第7章 施設計画 7. 2. 5」に記載しているとおり、アースギャラリーの施設機能は、休憩施設（トイレ・飲食提供等）としての機能を維持する、イベント会場や展示スペースとして活用する、施設に隣接する広場の有効活用を図る（臨時の特産物販売会場等）としております。</p> <p>軽食スペース・ミュージアムショップは展示棟（新設）での営業を想定しておりますが、アースギャラリーでのレストラン等の営業ニーズがある場合は、検討してまいります。</p> <p>また、アースギャラリーの冬期間閉鎖に係るご意見については、参考とさせていただきます。</p>
10	<p>必要性が感じられない。</p>	D	<p>本町では、平成27年度に策定した恐竜ワールド構想を地方創生のシンボル事業として位置づけ、人口減少や少子高齢化等の地域課題に対応した町民満足度向上とまちの活性化を実現する総合的な推進計画として、「恐竜ワールド構想推進計画」を策定しております。</p> <p>推進計画の中で、恐竜ワールド構想の核となる施設（穂別博物館、発掘現場等）の魅力向上は、一連の活動の根幹を担う戦略であると位置づけております。</p> <p>持続的なまちづくりをしていく上で、町の強みである地域資源を経済的価値に変え、産業を興し、地域の雇用創出をしていくことが重要となってきます。</p> <p>さらに、「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、交流人口の確保を目的に整備された一連の施設群において、施設の老朽化の進行に加え、新たな基準に対応した耐震性能の確保、さらには展示内容の陳腐化に伴う利用客の減少などが進んでおり、インバウンド客の増加や白老町における民族共生象徴空間の整備など、日胆管内を取り巻く観光市場の急激な変化の中、交流人口の確保を目指すためには、各施設の有する機能の見直しが不可欠な状況となっておりますので、ご理解願います。</p>

1 博物館周辺エリアにおける施設群の整備方針に係る意見について（39件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
11	人口減少・高齢化の問題を抱える本町として、世界に誇れる施設群整備はありえない。	D	<p>本町では、平成27年度に策定した恐竜ワールド構想を地方創生のシンボル事業として位置づけ、人口減少や少子高齢化等の地域課題に対応した町民満足度向上とまちの活性化を実現する総合的な推進計画として、「恐竜ワールド構想推進計画」を策定しております。</p> <p>推進計画の中で、恐竜ワールド構想の核となる施設（穂別博物館、発掘現場等）の魅力向上は、一連の活動の根幹を担う戦略であると位置づけております。</p> <p>持続的なまちづくりをしていく上で、町の強みである地域資源を経済的価値に変え、産業を興し、地域の雇用創出をしていくことが重要となってきます。</p> <p>さらに、「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、交流人口の確保を目的に整備された一連の施設群において、施設の老朽化の進行に加え、新たな基準に対応した耐震性能の確保、さらには展示内容の陳腐化に伴う利用客の減少などが進んでおり、インバウンド客の増加や白老町における民族共生象徴空間の整備など、日胆管内を取り巻く観光市場の急激な変化の中、交流人口の確保を目指すためには、各施設の有する機能の見直しが不可欠な状況となっておりますので、ご理解願います。</p>
12	ほべつ道民の森に含まれる町有地（地球体験館の裏手台地）の檜の古木は、道有林と一体となる立木地として保存に努めたもの。その伐採に及ぶゾーニング（駐車場）には賛成できない。	D	<p>「第7章 施設計画 7. 5」に記載しているとおり、A案又はC案の場合は、ほぼ現状のままであり立木の伐採は考えておりませんが、B案又はD案の場合は、立木の伐採が行われる可能性があるため、町民の皆様に必要な説明を行った上で実施することとしております。</p> <p>なお、檜の大木については、倒木の恐れがあったため、平成27年2月に伐採されております。</p>
13	新規に大型博物館を建築するのはコストがあまりに大きいため、現状の博物館の規模・サイズでの改装が望ましいと思う。	C	<p>「第7章 施設計画 7. 1. 1」に記載されているコンセプト（「海と陸の自然史博物館 ー古生物の水族館・動物園をめざすー」）を実現するためには、豊富に産出している海生爬虫類やアンモナイト化石、恐竜に代表される陸生動物化石を中心とした展示資料を充実させる必要があり、現状よりも広い展示スペースが必要となります。</p> <p>また、研究や体験活動場所を確保するためのスペースも必要となります。</p> <p>A案は理想の大きさで、C案はその約7割程度の大きさとなります。</p>

1 博物館周辺エリアにおける施設群の整備方針に係る意見について（39件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
14	博物館を含め、周辺施設の今後についての検討は随分前から出ている。世界に誇る「むかわ竜」に頼るわけではないが、今がチャンスだと思う。まだ眠っている貴重な化石の掘り起こしを進め、観光の活用と古生物学における学生や研究者の交流にもつなげていけるのではないかな。	B	「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。
15	今後30年以内に人口が今の半分以下に減るとされるむかわ町にとって、新博物館のオープン後にかかる維持費のミニマム化が最重要課題の一つと考える。立地的に当初の集客力が落ち込むことを考慮すると、20～30年後の町民負担を見据えたローコストな施設が望ましい。 仮に初期費用に関して国や道などから大きな支援が得られた場合でも、それは保管・研究面の充実に配分し、観光目的の周辺工事や展示棟の外観にかかる費用は最小限に抑えるべき。新穂別博物館は、小ぶりでも町財政の身の丈にあった施設にすることを提起する。	C	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
16	「7.1.2新たな博物館の目指す姿」の中で穂別地区へのこだわりが強すぎる以外は、全体的に良いと思う。図書館機能を拡大する理由はない。	C	「第7章 施設計画 7. 1. 2」に記載しているとおり、新たな博物館は、現穂別博物館の活動を引き継ぎ、むかわ町穂別産の化石（古生物）に重点を置くとしております。 また、恐竜を含む古生物や地質学関係の蔵書を増やすなどして、図書館機能を拡大してまいります。
17	新たな展示棟整備、現施設の活用など概ね理解できるが、整備方針全てに優先順位を定め、町民負担が過大とならないよう、町事業全体と調整し進めてほしい。	B	「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。 また、整備に当たりまして、町事業全体と調整しながら進めてまいります。
18	博物館、かせき学習館、野外博物館等、既存施設を拡充する方向で、周辺エリアの整備方針は総合的に良いと思う。地球体験館は発展的に解消し、エリアの拡充に努めてほしい。	B	「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。
19	今まであった地球体験館の歴史を無駄にしないように、ノウハウの継承をお願いしたい。	B	「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。

1 博物館周辺エリアにおける施設群の整備方針に係る意見について（39件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
20	研究部門について、その機能を充実させ学生等の研究に使ってほしい。	B	「北海道大学総合博物館古生物学研究分室」の設置を予定しており、古生物学の研究・普及啓発や地域振興をはじめとする相互協力事項について、北海道大学総合博物館と連携・協力関係を深めてまいります。
21	<p>投資と学術は分けるべき。その上で「博物館周辺エリア再整備」の投資の妥当性が問われる。投資は収益を目的としたもので、雇用を創り、消費を活発にし、地域に活力を産み、地域と住民を豊かにするものでなければならない。しかし、構想は収益の目標がないもので、長期間にわたり、住民に負担を強いるものになる可能性が大きなものである。</p> <p>観光事業は「水もの」で投資対象として不適切である。また、地域と住民に対するメリットも投資規模に対するメリットも投資規模に対して、極めて小さいとも予想できる。</p> <p>国内を見ると人口減少に加えて賃金の下落は止まらない。また、ここ5年間は二人世帯以上の貯蓄率がマイナスであり、このような中で観光ブームに躍ってはならない。</p> <p>過去の投資が地域と住民を豊かにできなかったので、同じ轍を踏んではならない。以上のことから、当構想から撤退する勇気を持つべきである。</p>	C	<p>持続的なまちづくりをしていく上で、町の強みである地域資源を経済的価値に変え、産業を興し、地域の雇用創出をしていくことが重要となってきます。</p> <p>そのため、博物館の研究機能を拡充しながらも、産業的機能も最大限発揮させることができる複合的な施設へ整備することをめざしております。</p> <p>詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p>
22	自然を生かした公園やレジャー施設がほしい。	C	<p>「第7章 施設計画 7. 2. 7」に記載しているとおり、つつじ山公園ゾーンは、町民の憩いの広場として現状の機能を維持管理するとともに、「ほべつ道民の森・つつじとアスパラの春まつり」等のイベント会場としての活用も予定しております。</p> <p>レジャー施設に係るご意見については、参考とさせていただきます。</p>
23	できるだけ自然を取り込み、土地の良さを感じられるものにしてほしい。	C	<p>「第7章 施設計画 7. 2. 4」に記載しているとおり、ガーデンの改修に当たって、現況の樹木、地形を生かし、古生物が生息していた時代をイメージできるよう工夫してまいります。</p> <p>また、「第7章 施設計画 7. 2. 6」に記載しているとおり、野外博物館ゾーンは、太古の森をイメージし、生きた化石であるメタセコイアやイチョウを植え、植生を回復させ、野外アート展等での活用も予定しております。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>

1 博物館周辺エリアにおける施設群の整備方針に係る意見について（39件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
24	メインは研究であり、観光はおまけで考えるべき。観光集客という経済的なメリットは後回しとして、研究者と研究者を目指す古生物マニアにとって魅力的で、学術面でも世界トップレベルの博物館を目指すのが正しいアプローチだと思う。その結果、観光客も増えて館内の売店や喫茶店が繁栄し、隣接商店街にもメリットが生まれるはず。	C	持続的なまちづくりをしていく上で、町の強みである地域資源を経済的価値に変え、産業を興し、地域の雇用創出をしていくことが重要となってきます。 そのため、博物館の研究機能を拡充しながらも、産業的機能も最大限発揮させることができる複合的な施設へ整備することをめざしております。
25	今すぐの博物館建設は反対。（増設自体には賛成。）維持費やコンセプト、民間主体の運営を採用するときの見通し、将来の解体までの見通しがよく分からない。解体というのは、年間入館者数が減少して十分な収益が見込めなくなった場合のほか、新たなレプリカを増やすことで設備面積を拡大するときの一部取り壊す必要がある場合も含める。	E	「第7章 施設計画 7. 1. 1」に記載しているとおり、新たな博物館は、「海と陸の自然史博物館」をコンセプトに、むかわ町から質・量ともに豊富に発見されている化石資料を収集・保管し、調査・研究、展示・普及活動を行うことで、中生代後期白亜紀の海と陸の双方を紹介できる国内でも稀有な施設をめざします。 穂別博物館は、博物館法第18条の規定に基づき設置されており、同法第23条では、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならないとされており。これを受け、多くの博物館では最低限の維持管理費を少額徴収するなど、博物館法により設置されている博物館は、本来的には収益確保を目的としていない施設（教育施設）といえます。 このため、年間入場者数が減少して十分な収益が見込めなくなったからといって施設解体は想定しておりません。 詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。
26	化石を活かしたまちづくり、博物館づくりがまちづくりと思っているが、施設オープン後はローコスト運営を念頭に置いてほしい。	C	現時点の想定としましては、博物館の研究・学術部門は「公共直営型」で行うこととし、施設管理部門や物販・飲食・体験事業などの収益部門については、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用を基本として、「指定管理型」の事業手法で運営することを想定しております。 なお、ランニングコスト等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。
27	かつて、この地に生息していた生物について、町内はもとより世界中の人々に知ってもらい、生命のつながりについて理解してもらいたいのので、ぜひ実現してもらいたい。	B	「第7章 施設計画 7. 1. 1」に記載しているとおり、新たな博物館は、「海と陸の自然史博物館」をコンセプトに、むかわ町から質・量ともに豊富に発見されている化石資料を収集・保管し、調査・研究、展示・普及活動を行うことで、中生代後期白亜紀の海と陸の双方を紹介できる国内でも稀有な施設をめざします。

1 博物館周辺エリアにおける施設群の整備方針に係る意見について（39件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
28	ホベツアラキリュウ、むかわ竜が穂別で発見されているため、場所は穂別に建設してほしい。	B	「第7章 施設計画 7. 5」に記載しているとおり、A案～D案のいずれの場合でも、現地球体験館の位置又は現駐車場の位置に展示棟を建設することを想定しております。
29	図書館部分は、図書館として独自に機能できるよう、空調の独自制御、収納スペース・機材の増強、北側出入口の確保も検討してほしい。	C	「第7章 施設計画 7. 2. 2」に記載しているとおり、図書館機能の拡充を予定しております。 ご意見については、参考とさせていただきます。
30	近頃、森林浴が盛んなため、穂別地区のもう一つの売りである自然を満喫してもらえるよう、周辺エリアに道民の森も含めて考えてはどうか。これは考え方だけの問題で、費用はさほどかからない。具体的には、野外博物館から元気の森へ抜ける約30分のコースと、野外博物館から道民の森遊歩道で春日の沢に抜ける約60分のコース。道はすでにあり、案内板・階段の補修、倒木の処理、熊よけに鐘の設置程度で済む。	C	「第7章 施設計画 7. 2. 6及び7. 2. 7」に記載しているとおり、今回の再整備の対象となっているのは、ほべつ道民の森のうち、野外博物館ゾーン及びつつじ山公園ゾーンのみとなっております。 ご意見については、その他のエリア整備を北海道と連携しながら進めていく上での参考とさせていただきます。
31	世界的にも貴重な発見の恐竜化石であることから発見場所を重視したネーミングにして穂別を基本に、むかわ町の発展ため計画を策定すべきである。また、むかわ竜の通称に穂別を取り入れていただきたい。	D	「むかわ竜」の名称について、恐竜化石発見者の意向を尊重した名称であること、さらに恐竜化石が産出された多くの自治体で市町村名を冠した呼び名を使用していることから、通称を「むかわ竜」としてまいります。
32	計画書を読んだが、わからない所や心配な所があるので、もう少し詳しい話が聞きたい。みんながアンケートに答えられるよう、もう一度最初から順序立てて教えてほしい。 現在の博物館も残して使う計画だが、建設から36年経っており、床のひび割れや、床下の水道管の腐食が生じている。安全に使うためにどのような補修を予定しているのか。補修によって今後どのくらいの期間使用できる建物なのか、詳しい内容が知りたい。また、補修にあたっては、穂別図書館も関係するので、補修の内容については別途説明と意見聴取をお願いしたい。	E	基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。

1 博物館周辺エリアにおける施設群の整備方針に係る意見について（39件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
33	<p>施設群の運営は現状、町税によって行われていると思うが、町民の人口減少が進み町税による歳入が減少していく中で、施設のリニューアルと維持管理は行っていけるのか。施設群の正確な収支の数字を拝見したことがなく、長らく施設の改修工事が行われていないところを考えると、赤字運営であることは想像できる。博物館や地球体験館の建設当時は誰も赤字になると予想して建てたわけではないと思うが、数十年が経ち老朽化した今、町に対して財政的負担をもたらしていることは否めない。リニューアルを行ったところで、同じ事の繰り返しになるのではないかと考えていて、町と町民にとっての良いこととは思えない。リニューアルに関しては、時代背景や、行政主導のハコモノの失敗例などを元にもう少し慎重に進めていくべきだと思う。</p>	C	<p>博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。</p> <p>基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>

2 展示構成・ゾーニングに係る意見について（30件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
1	展示構成は専門家の意見を取り入れてほしい。 (同様の意見 他1件)	C	北海道大学総合博物館、北海道博物館並びに桐生大学・桐生大学短期大学部と連携し、展示構成・ゾーニングを進めてまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
2	触れる、体感できる、記録（写真）に残せるような展示、館内にしてほしい。	B	「第8章 展示計画 8. 3」に記載しているとおり、古生物が生きていた世界を再現し、臨場感のある映像や双方向的な体験ができるデジタル技術を用いた展示手法を取り入れ、非日常感を味わいながらも誰もが楽しめる展示手法の展開をめざしてまいります。 また、五感を用いて楽しく理解できる展示手法を検討しており、資料に直接触れることができたり、骨格標本を組み立てる体験型展示など、古生物への理解を深める展示をめざしてまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
3	計画書のA案かC案の配置が最適と思う。 陸の古生物（むかわ竜）と海の古生物（ホベツアラキリュウなど）をどのように対峙させるか、あるいは肉食恐竜（ティラノサウルス）と草食恐竜（むかわ竜）をうまく対峙させること。それが新穂別博物館の根本的なコンセプトであり、オリジナリティを発揮させる第一歩である。	B	「第7章 施設計画 7. 5」に記載しているとおり、A案及びC案は、敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としております。 また、「第8章 展示計画 8. 2」に記載しているとおり、陸の古生物ゾーンにおいて、むかわ竜とティラノサウルスが対峙している様子を表現できるよう工夫してまいります。
4	子どもや家族連れを利用主体に据えたとあり、特に子どもが分かりやすく肌でも感じ取れるようなハンズオン展示やデジタル技術を活用し、子どもを飽きさせない展示が求められると思う。	B	「第7章 施設計画 7. 1. 3」に記載されているとおり、利用主体は特に子どもや家族連れをメインターゲットとしています。そのためには、子どもたちが興味を抱き、理解を深め、様々な体験ができる施設とすることをめざしています。 また、「第8章 展示計画 8. 3」に記載されているとおり、デジタル技術の導入や、ハンズオン展示などによる五感を使って体感できる展示をめざしてまいります。
5	展示棟の休息やショップ機能のスペースをアースギャラリーに移し、それを利用し展示スペースを広げるべきと考える。	C	展示棟（新設）内に、飲食コーナーやミュージアムショップを配置することを予定しております。 ご意見については、参考とさせていただきます。

2 展示構成・ゾーニングに係る意見について（30件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
6	廃止すべきである。	D	<p>本町では、平成27年度に策定した恐竜ワールド構想を地方創生のシンボル事業として位置づけ、人口減少や少子高齢化等の地域課題に対応した町民満足度向上とまちの活性化を実現する総合的な推進計画として、「恐竜ワールド構想推進計画」を策定しております。</p> <p>推進計画の中で、恐竜ワールド構想の核となる施設（穂別博物館、発掘現場等）の魅力向上は、一連の活動の根幹を担う戦略であると位置づけております。</p> <p>持続的なまちづくりをしていく上で、町の強みである地域資源を経済的価値に変え、産業を興し、地域の雇用創出をしていくことが重要となってきます。</p> <p>さらに、「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、交流人口の確保を目的に整備された一連の施設群において、施設の老朽化の進行に加え、新たな基準に対応した耐震性能の確保、さらには展示内容の陳腐化に伴う利用客の減少などが進んでおり、インバウンド客の増加や白老町における民族共生象徴空間の整備など、日胆管内を取り巻く観光市場の急激な変化の中、交流人口の確保を目指すためには、各施設の有する機能の見直しが不可欠な状況となっておりますので、ご理解願います。</p>
7	展示スペースの動線がもっとシンプルになれば利用者も見たいところへ行ける。プロローグとエピローグが隣り合わせだと、早く行かなければ、という気持ちが減るかもしれない。	C	<p>ご意見の趣旨を踏まえ、利用者の動線に配慮した展示構成・ゾーニングを検討してまいります。</p>
8	学術的には大変貴重な発見であることは十分に理解できるが、将来的には過大すぎる。	D	<p>本町では、平成27年度に策定した恐竜ワールド構想を地方創生のシンボル事業として位置づけ、人口減少や少子高齢化等の地域課題に対応した町民満足度向上とまちの活性化を実現する総合的な推進計画として、「恐竜ワールド構想推進計画」を策定しております。</p> <p>推進計画の中で、恐竜ワールド構想の核となる施設（穂別博物館、発掘現場等）の魅力向上は、一連の活動の根幹を担う戦略であると位置づけております。</p> <p>持続的なまちづくりをしていく上で、町の強みである地域資源を経済的価値に変え、産業を興し、地域の雇用創出をしていくことが重要となってきます。</p> <p>さらに、「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、交流人口の確保を目的に整備された一連の施設群において、施設の老朽化の進行に加え、新たな基準に対応した耐震性能の確保、さらには展示内容の陳腐化に伴う利用客の減少などが進んでおり、インバウンド客の増加や白老町における民族共生象徴空間の整備など、日胆管内を取り巻く観光市場の急激な変化の中、交流人口の確保を目指すためには、各施設の有する機能の見直しが不可欠な状況となっておりますので、ご理解願います。</p>

2 展示構成・ゾーニングに係る意見について（30件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
9	展示構成は、将来、白亜紀地層のジオパーク認定を念頭に置いて考えてはどうか。あるいは、小林先生が特に注目すると言っていた「陸と海」、「海岸線の恐竜・海棲は虫類など」をテーマにしてはどうか。	C	ジオパーク認定をめざすためには、拠点施設となる穂別博物館の整備に加え、新たな見学地の開拓や、既存の見学地の大規模な整備が必要となり、専門知識を有し多言語にも対応できる案内ガイドの育成や、町全体の見学者受け入れ体制の構築が必要となります。 さらに、認定の抹消を避けるためにも、常に認定基準を満たしている必要があり、現状においては認定をめざすことは困難であると考えています。 ご意見については、参考とさせていただきます。
10	大型恐竜化石の展示ということで大型施設が必要というなら、コストが安い屋外でのコンクリ壁等への大型化石レリーフでも良いのではないかと。実物化石の展示はできないのでレプリカ展示だと思うので、大型化石のサイズ感を具現化するにはこれでも良いのではないかと。	D	「第8章 展示計画 8. 3」に記載しているとおり、展示は実物化石にこだわり、それらを補完する役割として全身復元骨格などを配置することを考えています。町内で産出した実物化石を豊富に所蔵していることが当館の強みであり、過去の生物の証拠である化石そのものを展示することで、かつて生きていた生物について知り、現在の我々につながる生命の歴史を実感してもらいたいと考えています。
11	ここにしかない展示構成、というのがすごく良いと思った。展示構成、ゾーニング概念については特に意見なし。	B	「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。
12	専門的なことは分からないが、ワクワク感が得られるようにしてほしい。また、展示を部分的でも良いと思うので、プチリニューアルをしやすいようにすると良いと思う。	C	「第8章 展示計画 8. 3」に記載しているとおり、展示更新や入替え、追加に容易に対応できる手法を検討し、収集活動や研究活動の成果を随時反映することで、最新の知見や研究成果を適時発信できる展示とすることができるよう検討を進めてまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。

2 展示構成・ゾーニングに係る意見について（30件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
13	中生代の古生物展示を充実させて、ここにしかない展示構成は良い。ゆったりした場所（面積）を確保してほしい。	B	「第7章 施設計画 7. 5」に記載しているとおり、A案及びC案は、敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としております。 「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。
14	「海・陸」両方の化石資産を対比させる展示コンセプトには賛成する。ただ、展示スペースは可能な限り広い、躯体に絡む間仕切り壁の少ないオープンなホール空間を確保すべきと考える。理由は以下の二つ。 ①将来発掘される化石や恐竜などの肉付きモニュメントを追加展示する十分な余裕が必要であること。 ②リピーター確保のため、定期的な特別企画展、他博物館との展示品の貸し借りなどによるゾーニング見直ししやすい構造が望ましいこと。	C	「第8章 展示計画 8. 3」に記載しているとおり、展示更新や入替え、追加に容易に対応できる手法を検討し、収集活動や研究活動の成果を随時反映することで、最新の知見や研究成果を適時発信できる展示とすることができるよう検討を進めてまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
15	博物館活動の重要な位置を占める収蔵庫が小さいなどの問題点があると思う。当町の博物館が、現在に至るまで（特に近年）注目を集めているのは、博物館活動を続けてきたからだと言言できる。（最も注目を集めている「むかわ竜」の発見・発掘は博物館活動の結果といえる。） 継続的かつ活発な博物館活動を続けられるような施設群を作りたいことを望む。現状の予算規模では、希望する規模の施設群を整備できなかったとしても、町や博物館で理想や理念を掲げ続ける必要があると思う。	C	「第7章 施設計画 7. 2. 3」に記載しているとおり、かせき学習館は現在、化石資料の収蔵庫として使用されています。整備後は既存機能に加え化石標本を学術的に観察できる機能を確保してまいります。 「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。
16	町内外に誇れる展示内容となるよう希望。一方、初心者でも分かりやすく楽しめるような工夫や興味をひく展示を希望。	B	「第7章 施設計画 7. 1. 2」に記載しているとおり、地域住民の誇りとなる博物館をめざすとしております。 また、新たな博物館は子どもや家族連れを主な対象としており、展示解説は、最先端および高度に専門的であると同時に、分かりやすく、興味をひく内容を心がけてまいります。

2 展示構成・ゾーニングに係る意見について（30件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
17	プロローグでは、穂別博物館の古生物研究の成果と歴史を明確にする。中生代白亜紀の陸ゾーンでは、ハドロサウルス科恐竜を明記する。トピックスでは穂別地区の地層の成り立ちを分かりやすくする。	B	「第8章 展示計画 8. 2」に記載しているとおり、むかわ町穂別の古生物研究史を紹介することとしております。 また、むかわ町穂別の成り立ちとして、日本列島の成り立ちからむかわ町の地史・地質を展示することとしております。
18	展示構成については、良いと思う。VRやプロジェクションマッピングも良いと思うが、コスト面をどうするのか。	C	「第8章 展示計画 8. 3」に記載しているとおり、古生物が生きていた世界を再現し、臨場感のある映像や双方向的な体験ができるデジタル技術を用いた展示手法を取り入れ、非日常感を味わいながらも誰もが楽しめる展示手法の展開をめざしてまいります。 コスト面については、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。
19	ドラマが感じられる、感動を伝えられる展示にしてほしい。（むかわ竜の全身骨格がなぜ残っていたかなどを分かりやすく）	B	「第8章 展示計画 8. 2」に記載しているとおり、中生代の海と陸の古生物の展示を充実させ、むかわ竜やホベツアラキリュウをはじめとした、むかわ町穂別産の化石資料等を積極的に活用し、ここにしかない展示構成とすることとしておりますが、ご意見の趣旨を踏まえ、ストーリー性が感じられる展示ができるよう進めてまいります。
20	体験、デジタルに特化した他にはない特色のある施設にしてほしい。	C	「第8章 展示計画 8. 3」に記載しているとおり、古生物が生きていた世界を再現し、臨場感のある映像や双方向的な体験ができるデジタル技術を用いた展示手法を取り入れ、非日常感を味わいながらも誰もが楽しめる展示手法の展開をめざしてまいります。
21	外から多くの人や町内の子どもたちのリピートしてもらうために門戸を広くできるように、見て楽しめる体験できる（遊びながら身につく知識）ものなど取り込んでほしい。	C	「第8章 展示計画 8. 3」に記載しているとおり、古生物が生きていた世界を再現し、臨場感のある映像や双方向的な体験ができるデジタル技術を用いた展示手法を取り入れ、非日常感を味わいながらも誰もが楽しめる展示手法の展開をめざしてまいります。 また、五感を用いて楽しく理解できる展示手法を検討しており、資料に直接触れることができたり、骨格標本を組み立てる体験型展示など、古生物への理解を深める展示をめざしてまいります。

2 展示構成・ゾーニングに係る意見について（30件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
22	固定せず、頻繁に模様替えができる展示が良い。	B	「第8章 展示計画 8. 3」に記載しているとおり、展示更新や入替え、追加に容易に対応できる手法を検討し、収集活動や研究活動の成果を随時反映することで、最新の知見や研究成果を適時発信できる展示とすることができるよう進めてまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
23	陸・海で分けた古生物の展示構成はいいなとは思いますが、今後の発掘・発見・実物大レプリカ製作を考えると、今のスペースで十分なのだろうか。 また、ガーデンに関する内容が書かれておらず不明。	C	「第7章 施設計画 7. 5」に記載しているとおり、A案及びC案は、敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としております。 また、ガーデンについて「第7章 施設計画 7. 2. 4」に記載しているとおり、ガーデンの改修方針として、現況の樹木、地形を生かし、古生物が生息していた時代をイメージできるよう工夫してまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
24	「海・陸」を対比させる展示は分かりやすく、特別なことで良いと思う。しかし、ゾーンの中はいつも変化を持ってほしい。展示物の魅力こそ博物館の魅力と思っている。	B	「第8章 展示計画 8. 3」に記載しているとおり、展示更新や入替え、追加に容易に対応できる手法を検討し、収集活動や研究活動の成果を随時反映することで、最新の知見や研究成果を適時発信できる展示とすることができるよう進めてまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
25	海外産の寄せ集めではなく、地元産の実物化石にこだわることで、ここにしかない博物館としたい。	B	「第7章 施設計画 7. 1. 2」に記載しているとおり、むかわ町穂別産の実物化石を中心とすることで、「ここにしかない博物館」をめざしてまいります。
26	VRなどを効果的に使用して特色あるものにしてほしい。	C	「第8章 展示計画 8. 3」に記載しているとおり、古生物が生きていた世界を再現し、臨場感のある映像や双方向的な体験ができるデジタル技術を用いた展示手法を取り入れ、非日常感を味わいながらも誰もが楽しめる展示手法の展開をめざしてまいります。
27	穂別産の化石の種類から見て、「陸の古生物の動物園」の構成は苦勞しないだろうか。	C	むかわ町穂別産の陸の古生物化石は、むかわ竜や陸生カメが代表的ですが、ティラノサウルスレックス（通称：スコッティ（レプリカ））など町外産の古生物化石も活用することを予定しております。

2 展示構成・ゾーニングに係る意見について（30件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
28	恐竜2体は対面でなくても、逆方向で2体並べてもいいのかなと思う。	C	「第8章 展示計画 8.2」に記載しているとおり、陸の古生物ゾーンにおいて、むかわ竜とティラノサウルスが対峙している様子を表現できるよう検討を進めてまいります。
29	新たな博物館を建設した場合、毎年ソフト部分をコンスタントに変更しながら、5年～10年に1度大幅リニューアルをできるような考えと仕組みが必要になってくると思う。1度だけ博物館を訪れたら2度目は行かないという博物館では将来性はないと思うので、2回、3回と来てもらうための魅力づくりをどう行っていくかを重点的に考える必要がある。	C	「第8章 展示計画 8.3」に記載しているとおり、展示更新や入替え、追加に容易に対応できる手法を検討し、収集活動や研究活動の成果を随時反映することで、最新の知見や研究成果を適時発信できる展示とすることができるよう検討を進めてまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。

3 土地利用計画（案）に係る意見について				
(1) A案について（31件）				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
1	その他	時期尚早である。 (同様の意見 他1件)	C	「第10章 事業スケジュール（案）」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、町民説明会や出前講座を開催するなど、町民の皆様へ説明を行った上で事業を進めてまいります。
2	良い	将来のことを考えて、また大型の化石が出土されるかもしれないので大きめに作った方が良い。 また、増築する場合を想定しても周りに余裕があるので良いと思う。	B	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、A案は、既存の博物館を活用し、全体のバランスが考慮されている配置となっております。
3	良い	全体の配置バランスから見て良いと思う。ただし、現博物館前に駐車スペースを作るのは反対。景観上や来館者がちょっと休めるところがなくなる。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、A案は、既存の博物館を活用し、全体のバランスが考慮されている配置となっております。 また、現博物館前への駐車スペースの配置につきましては、図書館利用者等の利便性向上を図ろうとするものですが、ご意見については、参考とさせていただきます。
4	良い	A～Dの中では、館の広さということを重視して考えると最も良いと思う。	B	「第6章 整備方針検討 6.1.2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。
5	良い	A案かC案が最適と思う。 利用客が展示棟を中心として一息付けるガーデンやアースギャラリー、あるいは化石知識のランクアップを求める体験学習棟を利用する場合に利用客の動線が最適だと思う。 非日常を求めてくる利用者に、逸る気持ちを沸き立たせ現代から一気に恐竜の時代へと誘う（タイムスリップ）展示棟までのアクセス道路のイメージ作りができないだろうか。穂別大橋を作り、そこを渡ると異次元の世界に一歩踏み入れるというか、例えば恐竜の大型模型で迎えるとか、現穂別のメインストリート「進化の道」にさらに工夫を加えてはどうか。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、A案は、既存の博物館を活用し、全体のバランスが考慮されている配置となっております。 なお、A案及びC案は、展示棟と体験学習棟の往来には、一度屋外に出る必要がありますので、移動時の演出などを考慮してまいります。 また、「進化の道」は、地球誕生からの生命の歴史を表現していますが、PR方法などに係るご意見については、参考とさせていただきます。

3 土地利用計画（案）に係る意見について			
(1) A案について（31件）			
No	意見の内容		区分
6	悪い	必要性が感じられない。	D
7	良い	A～Dの中では一番使いやすい形をしている。ただ、小屋の用途やガーデンの維持がよくわからない。観光バスが停められないと、客はあまり増えないのでは。	C
8	悪い	A～D案はいずれもランニングコストを含む総費用が記載されていないので評価しようがない。税金を投入するのであれば、町民に、より具体的な金額を明示すべきであり、現時点での評価は悪い。	C

本町では、平成27年度に策定した恐竜ワールド構想を地方創生のシンボル事業として位置づけ、人口減少や少子高齢化等の地域課題に対応した町民満足度向上とまちの活性化を実現する総合的な推進計画として、「恐竜ワールド構想推進計画」を策定しております。

推進計画の中で、恐竜ワールド構想の核となる施設（穂別博物館、発掘現場等）の魅力向上は、一連の活動の根幹を担う戦略であると位置づけております。

持続的なまちづくりをしていく上で、町の強みである地域資源を経済的価値に変え、産業を興し、地域の雇用創出をしていくことが重要となってきます。

さらに、「第6章 整備方針検討 6.1. 2」に記載しているとおり、交流人口の確保を目的に整備された一連の施設群において、施設の老朽化の進行に加え、新たな基準に対応した耐震性能の確保、さらには展示内容の陳腐化に伴う利用客の減少などが進んでおり、インバウンド客の増加や白老町における民族共生象徴空間の整備など、日胆管内を取り巻く観光市場の急激な変化の中、交流人口の確保を目指すためには、各施設の有する機能の見直しが不可欠な状況となっておりますので、ご理解願います。

「第7章 施設計画 7. 5」に記載しているとおり、A案は、敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としております。

「第7章 施設計画 7. 2. 4」に記載しているとおり、現況の樹木、地形を生かし、古生物が生息していた時代をイメージできる環境を表現し、家族連れなどが楽しめる空間を演出するためにガーデンを配置しております。

また、小屋の用途について、ガーデン1（体験ゾーン）においては、雨天時でも化石発掘体験ができるスペースとしての活用を想定しております。

なお、観光バスの乗降スペースは確保しております。

博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。

基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。

ご意見については、参考とさせていただきます。

3 土地利用計画（案）に係る意見について				
(1) A案について（31件）				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
9	悪い	将来的な維持管理を考慮した場合、施設はコンパクトが妥当と思う。駐車場は2カ所で十分と思う。（ピークに合わせるのではなく、平均で検討願う。）	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、A案は既存の博物館を活用し、全体のバランスが考慮されている配置となっております。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。 また、「第7章 施設計画 7.3.1」に記載しているとおり、年間想定観覧者数35,000人を想定しており、A案はそれに基づき算出した土日に必要とされる駐車場スペースを確保しております。 ご意見については、参考とさせていただきます。
10	その他	20億円もの金額はどこから捻出するのか。この金額はむかわ町の将来を考えるにあたり妥当といえる額面なのか。	E	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。
11	良い	全体的にバランスの良い土地利用だと思う。	B	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、A案は、既存の博物館を活用し、全体のバランスが考慮されている配置となっております。
12	悪い	A案は、道路を挟んで建物の移動をするのが面倒（雨天時は特に）。団体の案内をするときに大変そう。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、A案及びC案では、展示棟と体験学習棟の行き来をするには、外に出る必要がありますので、ご意見の趣旨を踏まえ、移動時の安全性などを考慮してまいります。
13	その他	基本的に雨天時に傘を差しての移動は無しだと思うが、移動時に何か仕掛けができるのか。 また、現状、愛誠会が職員の駐車場として利用しているところはどうか対応するのか。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、A案及びC案では、展示棟と体験学習棟の行き来をするには、外に出る必要がありますので、移動時の安全性などを考慮してまいります。 また、施設職員等が駐車場を利用している件につきましては、関係者との協議を進めてまいります。

3 土地利用計画（案）に係る意見について				
(1) A案について（31件）				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
14	良い	展示棟の配置が立地場所から見て景観（見栄え）が良いのではないかと思います。周辺の土地利用にも利点が大いと思われる。	B	「第6章 整備方針検討 6.1.2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。
15	その他	設備費や維持費が不明確なため賛成しかねる。建物は地元木材を使った木造建築を採用し、必要に応じた増改築が可能なプランニングが望ましいと考える。暖房計画についても地元エネルギー活用を検討をお願いしたい。	C	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。 なお、木造建築にした場合、コンクリート建築に比して事業費が増大する可能性も考えられますが、ご意見については参考とさせていただきます。 また、再生可能エネルギーの導入も検討してまいります。
16	良い	提案の中で、展示施設が広く、施設群の関わりも良いと思う。	B	「第6章 整備方針検討 6.1.2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。
17	悪い	事業費が多大。	C	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。
18	良い	既存施設を活かし、地球体験館にハドロサウルス、ティラノサウルスを中心に新たな展示等の工夫をするのが良いと思う。ただ、予算がかかりすぎる。	D	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。 なお、A～D案いずれの案の場合でも地球体験館は解体することとなっております。

3 土地利用計画（案）に係る意見について				
(1) A案について（31件）				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
19	良い	展示的には良いと思うが、コストパフォーマンスは悪いかもしれない。	C	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。
20	良い	展示スペースが広くて良いと思う。費用が多額になると道路を横断して移動するのが心配。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、A案は、敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としております。 また、博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。 なお、「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、A案及びC案では、展示棟と体験学習棟の行き来をするには、外に出る必要がありますので、ご意見の趣旨を踏まえ、移動時の安全性などを考慮してまいります。
21	その他	4つの案の中では目立つことでは良いが、ガーデンの面積を多くとっているC案との折衷案はできないだろうか。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、A案及びC案の展示棟（新設）は、高い位置に建設されるため、存在感が増し、シンボル性が高まるとしております。 ガーデン面積に係るご意見については、参考とさせていただきます。
22	その他	十分な広さを持ち、ランニングコストの安いシンプルな構造がよい。	C	「第6章 整備方針検討 6.1.2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。

3 土地利用計画（案）に係る意見について				
(1) A案について（31件）				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
23	良い	A案は、施設の位置・駐車場の位置など、とても良いと思う。穂別の自然にもなじみ、リニューアルやイベントなどで土地の利用も可能であると思う。	B	「第6章 整備方針検討 6.1.2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。
24	良い	白亜紀の海と陸を紹介するには必要最小限の面積で将来の拡張性を考えるなら、さらに広い展示面積が必要である。展示室に加えて、大きな収蔵庫が必要。収蔵庫は博物館活動の要である。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、A案は、敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としております。 また、「第7章 施設計画 7.2.3」に記載しているとおり、現かせき学習館の研究機能を体験学習棟（現穂別博物館）へと移転し、資料の収集・保存機能を中心としてまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
25	その他	駐車場が多い。そこまで必要か。	C	「第7章 施設計画 7.3.1」に記載しているとおり、年間想定観覧者数35,000人を想定しており、A案はそれに基づき算出した土日に必要とされる駐車場スペースを確保しております。
26	良い	各施設との連携が良いと思われる。	B	「第6章 整備方針検討 6.1.2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。
27	良い	①今後、化石の研究・発掘を進めれば、さらに新しいものが出てくる可能性があり、スペースを確保するのは良い。 ②展示棟と体験学習棟は、雨天・積雪時でも利用しやすいよう、地下道路で結んではいかがでしょうか。 ③駐車場は図書館利用者や近隣事業所の方も利用しており現状維持を。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、A案は、敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としております。 「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、A案及びC案では、展示棟と体験学習棟の行き来をするには、外に出る必要がありますので、移動時の安全性などを考慮してまいります。 「第7章 施設計画 7.3.1」に記載しているとおり、年間想定観覧者数35,000人を想定しており、A案はそれに基づき算出した土日に必要とされる駐車場スペースを確保しております。 また、施設職員等が駐車場を利用している件につきましては、関係者との協議を進めてまいります。

3 土地利用計画（案）に係る意見について				
(1) A案について（31件）				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
28	良い	化石をしっかり展示できる広さがあつた方が良い。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、A案は、敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としております。ご意見については、参考とさせていただきます。
29	その他	維持管理経費が示されていないので、判断しにくい。A案とC案の展示棟の違いについて詳しく知りたい。	E	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。ご意見については、参考とさせていただきます。 「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、A案及びC案は、敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としております。 A案とC案の展示棟の違いは、C案がA案と比べて面積が約7割と狭いため、展示の工夫をしてまいります。
30	その他	博物館機能だけではなく、一般に対してのテナント貸しを行うようなスペースがあってもいいと思う。	C	「第7章 施設計画 7.2.5」に記載しているとおり、テナントスペースとしては、アースギャラリー及び隣接する広場を想定しておりますが、ご意見については、参考とさせていただきます。

(2) B案について(23件)				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
1	悪い	駐車場が広すぎる。特に、現体験館の裏山を大きく潰すのはいかがか。	C	「第7章 施設計画 7. 3. 1」に記載しているとおり、年間想定観覧者数35, 000人を想定しており、B案はそれに基づき算出した土日に必要とされる駐車場スペースを確保しております。
2	悪い	必要性が感じられない。	C	<p>本町では、平成27年度に策定した恐竜ワールド構想を地方創生のシンボル事業として位置づけ、人口減少や少子高齢化等の地域課題に対応した町民満足度向上とまちの活性化を実現する総合的な推進計画として、「恐竜ワールド構想推進計画」を策定しております。</p> <p>推進計画の中で、恐竜ワールド構想の核となる施設（穂別博物館、発掘現場等）の魅力向上は、一連の活動の根幹を担う戦略であると位置づけております。</p> <p>持続的なまちづくりをしていく上で、町の強みである地域資源を経済的価値に変え、産業を興し、地域の雇用創出をしていくことが重要となってきます。</p> <p>さらに、「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、交流人口の確保を目的に整備された一連の施設群において、施設の老朽化の進行に加え、新たな基準に対応した耐震性能の確保、さらには展示内容の陳腐化に伴う利用客の減少などが進んでおり、インバウンド客の増加や白老町における民族共生象徴空間の整備など、日胆管内を取り巻く観光市場の急激な変化の中、交流人口の確保を目指すためには、各施設の有する機能の見直しが不可欠な状況となっておりますので、ご理解願います。</p>
3	悪い	狭い上に、ゴチャゴチャしていて通りにくそう。ピロティにするならトイレを広くしてほしい。	C	<p>「第7章 施設計画 7. 5」に記載しているとおり、B案は、敷地は平らであるが、1階が海のゾーン、2階が陸のゾーンとなり、やや面積効率が悪い案となっております。</p> <p>トイレ配置に係るご意見については、参考とさせていただきます。</p>
4	悪い	A～D案はいずれもランニングコストを含む総費用が記載されていないので評価しようがない。税金を投入するのであれば、町民により具体的な金額を明示すべきであり、現時点での評価は悪い。	C	<p>博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。</p> <p>基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>

(2) B案について (23件)				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
5	悪い	将来的な維持管理を考慮した場合、施設はコンパクトが妥当と思われる。駐車場は2カ所で十分と思う。(ピークに合わせるのではなく、平均で検討願いたい。)	C	「第7章 施設計画 7. 3. 1」に記載しているとおり、年間想定観覧者数35,000人を想定しており、B案はそれに基づき算出した土日に必要とされる駐車場スペースを確保しております。
6	その他	時期尚早である。	C	「第10章 事業スケジュール(案)」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、町民説明会や出前講座を開催するなど、町民の皆様へ説明を行った上で事業を進めてまいります。
7	その他	A案と同じくこの建築費用金額はどこから捻出するのか。この金額はむかわ町の将来を考えるにあたり妥当といえる額面なのか。	E	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。
8	悪い	コンパクト過ぎる。(展示棟が小さい)	C	「第7章 施設計画 7. 5」に記載しているとおり、B案は、敷地は平らであるが、1階が海のゾーン、2階が陸のゾーンとなり、やや面積効率が悪い案となっております。
9	良い	現駐車場に展示棟を増やして、一つの建物にしたB案の方が、移動も楽しお客様にとってわかりやすいと思う。駐車場の数も多くて困ることはない。	C	体験学習棟とほぼ一体となっていることから、利用者にとって、利便性が高い土地利用案となっております。 「第7章 施設計画 7. 3. 1」に記載しているとおり、年間想定観覧者数35,000人を想定しており、それに基づき算出した土日に必要とされる駐車場スペースを確保しております。 ご意見については、参考とさせていただきます。

(2) B案について (23件)				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
10	その他	基本的に雨天時に傘を差しての移動は無しだと思うが、移動時に何か仕掛けができるのか。 また、現状、愛誠会が職員の駐車場として利用しているところはどう対応するのか。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、B案では、展示棟と体験学習棟が駐車情からやや離れているため、雨天時の移動を考慮し、ご意見については、参考とさせていただきます。 また、施設職員等が駐車場を利用している件につきましては、関係者との協議を進めてまいります。
11	その他	駐車場やガーデンが離れている(利便性が悪い)	C	駐車場やガーデンと博物館の距離感につきましては、A案やC案よりは劣る案となっております。
12	その他	A案同様、維持費などの算出とその公開をお願いしたい。	C	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。
13	悪い	B案は、広い展示スペースではなく、狭い展示スペースを集めたような印象です。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、B案は、敷地は平らであるが、1階が海のゾーン、2階が陸のゾーンとなり、やや面積効率が悪い案となっております。 ご意見については、参考とさせていただきます。
14	悪い	事業費が多大。	C	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。

(2) B案について (23件)				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
15	悪い	<p>駐車場はそんなにたくさん必要ないと思う。上の駐車場はいらない。現在の駐車場はそのまま利用できるようにしたほうが良い。予算がかかりすぎる。</p>	C	<p>「第7章 施設計画 7. 3. 1」に記載しているとおり、年間想定観覧者数35, 000人を想定しており、B案はそれに基づき算出した土日に必要とされる駐車場スペースを確保しております。</p> <p>また、博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。</p> <p>基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>
16	良い	<p>展示棟、博物館がコンパクトにまとまって、見学しやすい。費用が多額。ガーデンスペースが広いので有効に活用されるか心配。</p>	C	<p>「第7章 施設計画 7. 5」に記載しているとおり、B案は、体験学習棟に展示棟が併設し一体感がある一方、敷地は平らであるが、1階が海のゾーン、2階が陸のゾーンとなり、やや面積効率が悪い案となっております。</p> <p>博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。</p> <p>基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p> <p>ガーデンについて、「第7章 施設計画 7. 2. 4」に記載しているとおり、ガーデンの改修に当たって、現況の樹木、地形を生かし、古生物が生息していた時代をイメージできるよう工夫してまいります。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>
17	その他	<p>十分な広さを持ち、ランニングコストの安いシンプルな構造が良い。</p>	C	<p>「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。</p>

(2) B案について (23件)				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
18	その他	時期が早いと思う。これがいいのでは、と思うが、駐車場4の位置が遠いのが気になる。	C	「第10章 事業スケジュール(案)」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、町民説明会や出前講座を開催するなど、町民の皆様様に説明を行った上で事業を進めてまいります。 駐車場の位置に係るご意見については、参考とさせていただきます。
19	悪い	上部の駐車場整備の必要性はなく、博物館周りに土地的な余裕もない。	C	「第7章 施設計画 7.3.1」に記載しているとおり、年間想定観覧者数35,000人を想定しており、B案はそれに基づき算出した土日に必要とされる駐車場スペースを確保しております。
20	良い	白亜紀の海と陸を紹介するには必要最小限の面積で将来の拡張性を考えるなら、さらに広い展示面積が必要である。展示室に加えて、大きな収蔵庫が必要。収蔵庫は博物館活動の要である。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、B案は、敷地は平らであるが、1階が海のゾーン、2階が陸のゾーンとなり、やや面積効率が悪い案となっております。 収蔵庫の確保に係るご意見については、参考とさせていただきます。
21	その他	駐車場が多い。そこまで必要か。	C	「第7章 施設計画 7.3.1」に記載しているとおり、年間想定観覧者数35,000人を想定しており、B案はそれに基づき算出した土日に必要とされる駐車場スペースを確保しております。
22	良い	周辺施設との関連を活かした土地利用計画を策定して施設の各ゾーンを整備すること。	C	「第6章 整備方針検討 6.1.2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。
23	悪い	A案の方がインパクトがある。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、B案は、敷地は平らであるが、1階が海のゾーン、2階が陸のゾーンとなり、やや面積効率が悪い案となっております。

(3) C案について (24件)				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
1	その他	時期尚早である。 (同様の意見 他1件)	C	「第10章 事業スケジュール(案)」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、町民説明会や出前講座を開催するなど、町民の皆様にご丁寧な説明を行った上で事業を進めてまいります。
2	良い	4案の中では一番良いと思う。周囲の景観を損なわないから。新館前の左側にも駐車場を作ってもいいのでは。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、C案は、A案と同じく敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としておりますが、A案と比べて面積が小さいため、展示に工夫が必要となります。 新館前の左側のスペースについて、A案やC案では、雨天時でも化石発掘体験ができるスペースとしての活用を想定しておりますが、ご意見については、参考とさせていただきます。
3	良い	A案かC案が最適と思う。 利用客が展示棟を中心として一息付けるガーデンやアースギャラリー、あるいは化石知識のランクアップを求める体験学習棟を利用する場合に利用客の動線が最適だと思う。 非日常を求めてくる利用者に、逸る気持ちを沸き立たせ現代から一気に恐竜の時代へと誘う(タイムスリップ)展示棟までのアクセス道路のイメージ作りができないだろうか。穂別大橋を作り、そこを渡ると異次元の世界に一歩踏み入れるというか、例えば恐竜の大型模型で迎えるとか、現穂別のメインストリート「進化の道」にさらに工夫加えてはどうか。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、A案は、既存の博物館を活用し、全体のバランスが考慮されている配置となっております。 なお、A案及びC案は、展示棟と体験学習棟の往来には、一度屋外に出る必要がありますので、移動時の演出などを考慮してまいります。 また、「進化の道」は、地球誕生からの生命の歴史を表現していますが、PR方法などに係るご意見については、参考とさせていただきます。

(3) C案について(24件)				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
4	悪い	必要性が感じられない。	D	<p>本町では、平成27年度に策定した恐竜ワールド構想を地方創生のシンボル事業として位置づけ、人口減少や少子高齢化等の地域課題に対応した町民満足度向上とまちの活性化を実現する総合的な推進計画として、「恐竜ワールド構想推進計画」を策定しております。</p> <p>推進計画の中で、恐竜ワールド構想の核となる施設(穂別博物館、発掘現場等)の魅力向上は、一連の活動の根幹を担う戦略であると位置づけております。</p> <p>持続的なまちづくりをしていく上で、町の強みである地域資源を経済的価値に変え、産業を興し、地域の雇用創出をしていくことが重要となってきます。</p> <p>さらに、「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、交流人口の確保を目的に整備された一連の施設群において、施設の老朽化の進行に加え、新たな基準に対応した耐震性能の確保、さらには展示内容の陳腐化に伴う利用客の減少などが進んでおり、インバウンド客の増加や白老町における民族共生象徴空間の整備など、日胆管内を取り巻く観光市場の急激な変化の中、交流人口の確保を目指すためには、各施設の有する機能の見直しが不可欠な状況となっておりますので、ご理解願います。</p>
5	悪い	利用者の休めるスペースがない。ガーデンの広さはそこまで必要なのか。	C	<p>「第7章 施設計画 7. 2. 5」に記載しているとおり、アースギャラリーの施設機能として、休憩施設としての機能を維持することとしております。</p> <p>また、ガーデンについて、「第7章 施設計画 7. 2. 4」に記載しているとおり、ガーデンの改修に当たって、現況の樹木、地形を生かし、古生物が息息していた時代をイメージできるよう工夫してまいります。</p>
6	悪い	A~D案はいずれもランニングコストを含む総費用が記載されていないので評価しようがない。税金を投入するのであれば、町民に、より具体的な金額を明示すべきであり、現時点での評価は悪い。	C	<p>博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。</p> <p>基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p>

(3) C案について (24件)				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
7	良い	4案の中では一番良いと思う。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、C案は、A案と同じく敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としておりますが、A案と比べて面積が小さいため、展示の工夫をしてみたいです。
8	その他	A案と同じくこの建築費用金額はどこから捻出するのか。この金額はむかわ町の将来を考えるにあたり妥当といえる額面なのか。	E	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。
9	悪い	C案は、展示棟も小さく、駐車場も少ない。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、C案は、A案と同じく敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としておりますが、A案と比べて面積が小さいため、展示に工夫が必要となります。 「第7章 施設計画 7.3.1」に記載しているとおり、年間想定観覧者数35,000人を想定していますが、C案はそれに基づき算出した土日に必要とされる駐車場の総収容台数を確保できない案となっているため、整備に当たって駐車スペースの確保ができるよう工夫をしてみたいです。
10	悪い	A案、B案と比べて面積が狭いので、広い方が狭いよりは展示スペースを有効活用できると思う。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、C案は、A案と同じく敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としておりますが、A案と比べて面積が約7割と狭いため、展示の工夫をしてみたいです。
11	その他	基本的に雨天時に傘を差しての移動は無しだと思うが、移動時に何か仕掛けができるのか。 また、現状、愛誠会が職員の駐車場として利用しているところはどうか。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、A案及びC案では、展示棟と体験学習棟の行き来をするには、外に出る必要がありますので、移動時の安全性などを考慮してまいります。 また、施設職員等が駐車場を利用している件につきましては、関係者との協議を進めてまいります。

(3) C案について (24件)				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
12	良い	A案と同じに思うが、展示棟のスペースはゆったりした面積がほしい。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、C案は、A案と同じく敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としておりますが、A案と比べて面積が小さいため、展示の工夫をしております。
13	その他	C案は、建物が小ぶりです初期費用を抑えられる案として基本的には良いと思う。ただ、A案・B案同様、維持費見積もりの検討・公開をお願いしたい。	C	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。
14	悪い	展示棟が狭いので、好ましくない。展示スペースが700㎡以下だと展示施設の満足度がかなり低くなるかと思う。交通の便が不便な立地にあるので、リピーターの獲得が困難だと思う。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、C案は、A案と同じく敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としておりますが、A案と比べて面積が約7割と狭いため、展示の工夫をしております。
15	良い	町内外に誇れる施設規模も身の丈が必要であり、ランニングコストも抑えられる。ガーデン整備は急がず事業費を抑えてほしい。C案は後背の緑の中にあり環境が良い。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、C案は、A案と同じく敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としておりますが、A案と比べて面積が約7割と狭いため、展示の工夫をしております。 博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。
16	良い	理由は、A案と似ているが、経済的にもこれくらいかと思う。現在の施設の有効活用と効率的な展示の工夫をしてほしい。	B	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、C案は、A案と同じく敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としておりますが、A案と比べて面積が小さいため、展示の工夫をしております。 C案は、A案の約7割の面積として、展示棟の建設費用を圧縮していることから、ご意見については、参考とさせていただきます。

(3) C案について (24件)				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
17	悪い	面積が狭い、道路を横断して移動するなど、デメリットが多い。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、C案は、A案と同じく敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としておりますが、A案と比べて面積が約7割と狭いため、展示の工夫をしております。 「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、A案及びC案では、展示棟と体験学習棟の行き来をするには、外に出る必要がありますので、ご意見の趣旨を踏まえ、移動時の安全性などを考慮してまいります。
18	その他	十分な広さを持ち、ランニングコストの安いシンプルな構造がよい。	C	「第6章 整備方針検討 6.1.2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。
19	良い	博物館内の広さが問題だと思うが、博物館の位置・駐車場の位置は良いと思う。この場合、屋外イベント等の簡単な作りの場所（建物）が必要と思う。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、C案は、A案と同じく敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としておりますが、A案と比べて面積が約7割と狭いため、展示の工夫をしております。 屋外イベント施設につきましては、つつじ山公園の既存施設等の有効活用を図ってまいります。
20	悪い	狭い。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、C案は、A案と同じく敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としておりますが、A案と比べて面積が約7割と狭いため、展示の工夫をしております。
21	良い	広さ的に一番良い感じがする。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、C案は、A案と同じく敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としておりますが、A案と比べて面積が約7割と狭いため、展示の工夫をしております。

(3) C案について (24件)				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
22	悪い	A案の方がインパクトがある。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、C案は、A案と同じく敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としておりますが、A案と比べて面積が約7割と狭いため、展示の工夫をしております。
23	その他	予算面から、A案の次善の案として良いと思う。町の財政や後世への負担を考えると、A案全面賛成とも言いがたいものがあります。現在の展示物・収蔵庫ならば、収まるのではないかと。将来、発掘や研究が進み、スペースが必要な場合、拡張を想定した設計も一考では。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、C案は、A案と同じく敷地の高低差を生かして、海のゾーン、陸のゾーンなど展示計画に沿った配置を可能としておりますが、A案と比べて面積が約7割と狭いため、展示の工夫をしております。 拡張について、施設を増設する場合の財源確保がさらに厳しくなることが想定されます。 ご意見については、参考とさせていただきます。

(4) D案について (21件)				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
1	悪い	旧館と一体的に配置することはいいと思うが、駐車場の位置や現況利用から見ても大きく自然を破壊する。(上の駐車場)	C	D案の駐車場位置について、できるだけ自然を活かした配置ができるよう工夫してまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
2	悪い	必要性が感じられない。	D	本町では、平成27年度に策定した恐竜ワールド構想を地方創生のシンボル事業として位置づけ、人口減少や少子高齢化等の地域課題に対応した町民満足度向上とまちの活性化を実現する総合的な推進計画として、「恐竜ワールド構想推進計画」を策定しております。 推進計画の中で、恐竜ワールド構想の核となる施設(穂別博物館、発掘現場等)の魅力向上は、一連の活動の根幹を担う戦略であると位置づけております。 持続的なまちづくりをしていく上で、町の強みである地域資源を経済的価値に変え、産業を興し、地域の雇用創出をしていくことが重要となってきます。 さらに、「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、交流人口の確保を目的に整備された一連の施設群において、施設の老朽化の進行に加え、新たな基準に対応した耐震性能の確保、さらには展示内容の陳腐化に伴う利用客の減少などが進んでおり、インバウンド客の増加や白老町における民族共生象徴空間の整備など、日胆管内を取り巻く観光市場の急激な変化の中、交流人口の確保を目指すためには、各施設の有する機能の見直しが不可欠な状況となっておりますので、ご理解願います。
3	悪い	狭い。体験ゾーンが遠い。	C	「第7章 施設計画 7. 5」に記載しているとおり、D案は、敷地は平らであるが、1階が海のゾーン、2階が陸のゾーンとなり、4案の中で最も面積効率が悪い案となっております。 体験ゾーンにつきましては、全体的な施設配置の関係から道路を挟み距離が遠くなっております。
4	悪い	A~D案はいずれもランニングコストを含む総費用が記載されていないので評価しようがない。税金を投入するのであれば、町民に、より具体的な金額を明示すべきであり、現時点での評価は悪い。	C	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。

(4) D案について (21件)				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
5	悪い	駐車場との距離感が微妙だと思う。	C	駐車場やガーデン、体験ゾーンと博物館の距離感につきましては、全体的な施設配置の関係から道路を挟んでおります。
6	その他	時期尚早である。	C	「第10章 事業スケジュール(案)」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、町民説明会や出前講座を開催するなど、町民の皆様へ説明を行った上で事業を進めてまいります。
7	その他	A案と同じくこの建築費用金額はどこから捻出するのか。この金額はむかわ町の将来を考えるにあたり妥当といえる額面なのか。	E	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
8	悪い	展示棟も小さく、駐車場も少ない。	C	「第7章 施設計画 7.3.1」に記載しているとおり、年間想定観覧者数35,000人を想定していますが、D案はそれに基づき算出した土日に必要とされる駐車場の総収容台数を確保できない案となっているため、整備に当たって駐車スペースの確保ができるよう工夫してまいります。 「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、D案は、敷地は平らではありませんが、1階が海のゾーン、2階が陸のゾーンとなり、4案の中で最も面積効率が悪い案となっております。
9	悪い	D案は、駐車場の数が少ない。駐車場は多い方がいい。面積がA案、B案に比べて狭いので、もし展示を増やすことがあった場合に、面積はできるだけ広い方がいい。	C	「第7章 施設計画 7.3.1」に記載しているとおり、年間想定観覧者数35,000人を想定していますが、D案はそれに基づき算出した土日に必要とされる駐車場の総収容台数を確保できない案となっているため、整備に当たって駐車スペースの確保ができるよう工夫してまいります。 「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、D案は、敷地は平らではありませんが、1階が海のゾーン、2階が陸のゾーンとなり、4案の中で最も面積効率が悪い案となっております。 ご意見については、参考とさせていただきます。

(4) D案について (21件)				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
10	その他	基本的に雨天時に傘を差しての移動は無しだと思うが、移動時に何か仕掛けができるのか。 また、現状、愛誠会が職員の駐車場として利用しているところはどう対応するのか。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、D案では、展示棟と体験学習棟が駐車情からやや離れているため、雨天時の移動を考慮し、ご意見については、参考とさせていただきます。 また、施設職員等が駐車場を利用している件につきましては、関係者との協議を進めてまいります。
11	その他	駐車場やガーデンが離れていること(利便性が悪い)に加えて、展示棟全体が狭いように感じる。	C	駐車場とガーデンの距離感はA案及びC案に比べ劣っております。 また、「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、D案は、敷地は平らであるが、1階が海のゾーン、2階が陸のゾーンとなり、4案の中で最も面積効率が悪い案となっております。
12	その他	ライオンズ広場の駐車場を現・地球体験館の位置にずらせば、来訪者の利便性も高まり、よりコンパクトになるかと思えます。	C	「第7章 施設計画 7.3.1」に記載しているとおり、年間想定観覧者数35,000人を想定していますが、D案はそれに基づき算出した土日に必要とされる駐車場の総収容台数を確保できない案となっているため、整備に当たって駐車スペースの確保ができるよう工夫してまいります。
13	悪い	C案と比べて、さらにこぢんまりとした展示棟のように感じる。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、D案は、敷地は平らではありませんが、1階が海のゾーン、2階が陸のゾーンとなり、4案の中で最も面積効率が悪い案となっております。
14	悪い	駐車場が博物館から離れ利用しにくい。	C	駐車場やガーデンと博物館の距離感につきましては、A案やC案よりは劣っておりますが、ご意見については、参考とさせていただきます。
15	悪い	山側は駐車場を設置しているが、上の駐車場の拡充で間に合うと思う。無理な計画は良くないと思う。新旧の博物館が近いのは良いと思うが、今の駐車場は残した方が良い。	C	「第7章 施設計画 7.3.1」に記載しているとおり、年間想定観覧者数35,000人を想定していますが、D案はそれに基づき算出した土日に必要とされる駐車場の総収容台数を確保できない案となっているため、整備に当たって駐車スペースの確保ができるよう工夫してまいります。
16	悪い	面積が狭い、駐車スペースも狭い、せっかく建てるのでこれでは物足りない。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、D案は、敷地は平らであるが、1階が海のゾーン、2階が陸のゾーンとなり、4案の中で最も面積効率が悪い案となっております。

(4) D案について (21件)				
No	意見の内容		区分	意見に対する町の考え方
17	その他	十分な広さを持ち、ランニングコストの安いシンプルな構造が良い。	C	「第6章 整備方針検討 6.1.2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。
18	その他	時期尚早である。博物館同士の行き来で道路をまたがないのが安全で良いと思う。駐車場2の位置がB案の駐車場2の位置にあれば便利だと思う。	C	「第10章 事業スケジュール(案)」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、町民説明会や出前講座を開催するなど、町民の皆様説明を行った上で事業を進めてまいります。 「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、A案及びC案では、展示棟と体験学習棟の行き来をするには、外に出る必要がありますので、ご意見の趣旨を踏まえ、移動時の安全性などを考慮してまいります。
19	悪い	上部の駐車場整備の必要性はなく、博物館周りに土地的な余裕もない。	C	「第7章 施設計画 7.3.1」に記載しているとおり、年間想定観覧者数35,000人を想定しており、D案はそれに基づき算出した土日に必要とされる駐車場の総収容台数を確保できない案となっております。
20	悪い	狭い。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、D案は、敷地は平らであるが、1階が海のゾーン、2階が陸のゾーンとなり、4案の中で最も面積効率が悪い案となっております。
21	悪い	A案の方がインパクトがある。	C	「第7章 施設計画 7.5」に記載しているとおり、D案は、敷地は平らであるが、1階が海のゾーン、2階が陸のゾーンとなり、4案の中で最も面積効率が悪い案となっております。

4 事業手法に係る意見について（30件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
1	<p>公設民営で補助金活用が望ましい。 （同様の意見 他2件）</p>	C	<p>現時点の想定としましては、博物館の研究・学術部門は「公共直営型」で行うこととし、施設管理部門や物販・飲食・体験事業などの収益部門については、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用を基本として、「指定管理型」の事業手法で運営することを想定しております。</p> <p>博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。</p> <p>基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p>
2	<p>管理運営面に民間のノウハウをと説明されているが、先進事例や計画でどの分野にそのノウハウを活用しようと計画されているのかが分からない。</p> <p>例えばアースギャラリーの展開によっては利用客へのサービス提供として委託化は考えられると思うし、ワールドセンターや地元業者の直接参加を促すきっかけになると考える。</p> <p>また、人が集まるとそこには色々なビジネスチャンスが発生してくると思う。テナント販売や委託販売など、民間との取引手法を事前に想定し準備すべき。</p> <p>（関連施設の管理運営経費がいくらか試算は出ていないが、利用料推定約15,750千円（平均単価を450円／人程度／年間利用人数35,000人）や物販の純利益収入以外は全て公費負担となります。）</p> <p>（そもそも博物館事業は非収益性の公共施設であり、博物館法によれば館長や学芸員を中心として運営管理がなされている公共性が色濃い施設であるとされているが、どの部分を民間に委託するか、一方民間はどの分野で事業を展開できるのか実施を想定した検討が必要だと考える。）</p> <p>また、博物館事業において一部を館長や学芸員が関わる直営分野と民間委託分野が同一の目的をもって活動する場合に管理運営面が難しいし、業務全般を指定管理者に委託する場合に、化石展示物管理の取扱いや調査研究分野、体験学習等の公的な事業全てを民間のノウハウを活用することは机上の議論の域をでないのではないか。</p>	C	<p>現時点の想定としましては、博物館の研究・学術部門は「公共直営型」で行うこととし、施設管理部門や物販・飲食・体験事業などの収益部門については、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用を基本として、「指定管理型」の事業手法で運営することを想定しております。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>

4 事業手法に係る意見について（30件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
3	そもそも事業を行うべきではない。	D	<p>本町では、平成27年度に策定した恐竜ワールド構想を地方創生のシンボル事業として位置づけ、人口減少や少子高齢化等の地域課題に対応した町民満足度向上とまちの活性化を実現する総合的な推進計画として、「恐竜ワールド構想推進計画」を策定しております。</p> <p>推進計画の中で、恐竜ワールド構想の核となる施設（穂別博物館、発掘現場等）の魅力向上は、一連の活動の根幹を担う戦略であると位置づけております。</p> <p>持続的なまちづくりをしていく上で、町の強みである地域資源を経済的価値に変え、産業を興し、地域の雇用創出をしていくことが重要となってきます。</p> <p>さらに、「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、交流人口の確保を目的に整備された一連の施設群において、施設の老朽化の進行に加え、新たな基準に対応した耐震性能の確保、さらには展示内容の陳腐化に伴う利用客の減少などが進んでおり、インバウンド客の増加や白老町における民族共生象徴空間の整備など、日胆管内を取り巻く観光市場の急激な変化の中、交流人口の確保を目指すためには、各施設の有する機能の見直しが不可欠な状況となっておりますので、ご理解願います。</p>
4	売店やカフェのみ民間で、博物館は全て公共で扱うのが良い。失敗した時のリスクが指定管理だと高いのでは。	C	<p>現時点の想定としましては、博物館の研究・学術部門は「公共直営型」で行うこととし、施設管理部門や物販・飲食・体験事業などの収益部門については、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用を基本として、「指定管理型」の事業手法で運営することを想定しております。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>
5	国費・道費補助が現時点で決まっていないので、手法はPFI型にすべき。	C	<p>「第9章 事業手法の検討 9. 1」に記載しているとおり、事業手法の検討においては、一般的な整備方式である公共直営による施設整備をベースとしながらも、他地域事例を踏まえて本施設整備に適する事業手法を選択してまいります。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>

4 事業手法に係る意見について（30件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
6	国や道からの補助にて建設されることを望む。	C	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。
7	手法より費用対効果、町民の負担軽減の観点に関心あり。	C	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。
8	民間委託での事業継続には黒字化が必須だが、新博物館建築というプランニングだけで民間事業者が参画するのか。（毎年充分な集客ができ、黒字運営は可能なのか） 公的に運営するのであれば年間の運営経費はむかわ町の税金で賄うのか。	E	現時点の想定としましては、博物館の研究・学術部門は「公共直営型」で行うこととし、施設管理部門や物販・飲食・体験事業などの収益部門については、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用を基本として、「指定管理型」の事業手法で運営することを想定しております。 なお、基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。
9	分からない。他の博物館や公共施設の状況分析で方向性を示していただけのでは。	E	現時点の想定としましては、博物館の研究・学術部門は「公共直営型」で行うこととし、施設管理部門や物販・飲食・体験事業などの収益部門については、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用を基本として、「指定管理型」の事業手法で運営することを想定しております。 なお、基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。
10	理想としては、タイプCのPFI型と思われるが、実質的に不可能と考えるので、タイプBの指定管理型が良いと思う。	C	現時点の想定としましては、博物館の研究・学術部門は「公共直営型」で行うこととし、施設管理部門や物販・飲食・体験事業などの収益部門については、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用を基本として、「指定管理型」の事業手法で運営することを想定しております。 ご意見については、参考とさせていただきます。

4 事業手法に係る意見について（30件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
11	恒常的な黒字運営は難しいと思われるため、A公共直営型が妥当と考える。ただし、指定管理業者やPFI受託業者が現れれば反対はしない。	C	現時点の想定としましては、博物館の研究・学術部門は「公共直営型」で行うこととし、施設管理部門や物販・飲食・体験事業などの収益部門については、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用を基本として、「指定管理型」の事業手法で運営することを想定しております。 ご意見については、参考とさせていただきます。
12	博物館の学芸活動が活発になるような手法が望ましい。学芸員等に入館者数増や観光に関わる業務を負担させないことが重要だと思う。博物館（学芸部）などで行う長い期間を見越した調査・研究・展示活動を理解せずに、指定管理し、その数年後に行政直営方式に戻している美術館などがあるので、そうした先例のようにならないようにしてほしい。	C	現時点の想定としましては、博物館の研究・学術部門は「公共直営型」で行うこととし、施設管理部門や物販・飲食・体験事業などの収益部門については、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用を基本として、「指定管理型」の事業手法で運営することを想定しております。 なお、指定管理者側と十分に連携を図った施設運営を行ってまいります。
13	基本的にはAタイプの公共直営が良いと思うが資金調達については、道や国の事業と関連づけをして計画的に進めてほしい。	C	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
14	施設を建てるにあたっての財源はどうか。国や道にお願いする方法はないのか。	C	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 また、国・道など関係機関に対しては、あらゆる機会を活用しながら、要請活動を進めております。
15	地域を豊かにするには、何か価値を大きくすることである。それによるとA、B、Cの順でCは最も小さい。1990年代後半から我が国と先進国はグローバル化と一体でC、B、Aの方向性を有し、国民の格差問題と低成長の疑問を抱えた。そのような経済を変えなければ、国民の格差のみならず、中央と地方の格差も大きくなる一方である。私たちは、地域と住民が豊かに生きるために地域経済を根底から紡ぎ直さなければならない時代に来ている。	C	持続的なまちづくりをしていく上で、町の強みである地域資源を経済的価値に変え、産業を興し、地域の雇用創出をしていくことが重要となってきます。 そのため、博物館の研究機能を拡充しながらも、産業的機能も最大限発揮させることができる複合的な施設へ整備することをめざしております。 現時点の想定としましては、博物館の研究・学術部門は「公共直営型」で行うこととし、施設管理部門や物販・飲食・体験事業などの収益部門については、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用を基本として、「指定管理型」の事業手法で運営することを想定しております。

4 事業手法に係る意見について（30件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
16	B案指定管理型が望ましいと思うが、町内に任せられる管理者がいるかどうか不安はある。世界的にも貴重な財産であることを忘れず、町が責任を持って行ってほしい。決して丸投げにならないように。	C	現時点の想定としましては、博物館の研究・学術部門は「公共直営型」で行うこととし、施設管理部門や物販・飲食・体験事業などの収益部門については、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用を基本として、「指定管理型」の事業手法で運営することを想定しております。 なお、町としての責任を放棄するものではありません。 ご意見については、参考とさせていただきます。
17	官民協働のまちづくり会社。役場と観光協会、企業団体、民間ボランティアも組み込むまちづくり会社を創設し、時間をかけて「恐竜ワールド構想」を推進すべき。30年後に人口が半分以下になっても、博物館を中心に恐竜グッズや絵本などを創るアーティストや自然体験メニューを企画する町衆がいる。そんな魅力的な町を官民で作り上げるのが当町の生き残りの戦略になるはず。	C	まちづくり会社の創設については、庁内でも検討を進めており、それを母体として、恐竜ワールド構想のさらなる推進をめざしております。 アート・デザインを活かした取り組みは、本町と相互協力協定を締結している群馬県の桐生大学・桐生大学短期大学部とも連携しながら進めてまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
18	民間に業務の一部を任せるのはいいと思う反面、実際に運営したいと考えている個人・民間事業者を募集して（そこまでしっかりした募集でなくてもいいと思う）、意見を聞き、運営スタイルを固めることが優先かと思う。	C	多くの民間事業者の参入機会の拡大を図る観点から、委託するに当たっては、原則として公募とすることを想定しております。
19	新博物館は公共直営型、旧博物館は研究の場として、北大総合博物館の分室の締結されたことなので、連携をとりながら、運営をしていただくことにはならないだろうか。	C	現時点の想定としましては、博物館の研究・学術部門は「公共直営型」で行うこととし、施設管理部門や物販・飲食・体験事業などの収益部門については、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用を基本として、「指定管理型」の事業手法で運営することを想定しております。 また、「北海道大学総合博物館古生物学研究分室」の設置を予定しており、古生物学の研究・普及啓発や地域振興をはじめとする相互協力事項について、北海道大学総合博物館と連携・協力関係を深めてまいります。
20	直営型が望ましいが、指定管理者制度の導入も1つの方法であると思う。ただし、どのように委託するか（どの部分を委託するか）について、十分な検討が必要である。	C	現時点の想定としましては、博物館の研究・学術部門は「公共直営型」で行うこととし、施設管理部門や物販・飲食・体験事業などの収益部門については、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用を基本として、「指定管理型」の事業手法で運営することを想定しております。

4 事業手法に係る意見について（30件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
21	民間事業者運営は難しいと考える。A型の公共直営の方が長く続くのではないかと。	C	<p>持続的なまちづくりをしていく上で、町の強みである地域資源を経済的価値に変え、産業を興し、地域の雇用創出をしていくことが重要となってきます。</p> <p>そのため、博物館の研究機能を拡充しながらも、産業的機能も最大限発揮させることができる複合的な施設へ整備することをめざしております。</p> <p>「第9章 事業手法の検討 9.1」に記載しているとおり、事業手法の検討においては、一般的な整備方式である「公共直営型」による施設整備をベースとしながらも、他地域事例を踏まえて本施設整備に適する事業手法を洗い出し、整備面・管理運営面・経済性などを比較検討しながら、今後の整備に向けた課題の整理を進めてまいります。</p>
22	公共直営とすると財政的に限度があるので、国や道の助成の他、民間と共同活用して管理運営にあたる。将来的にはBタイプ指定管理が望ましい。	C	<p>博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。</p> <p>基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p> <p>現時点の想定としましては、博物館の研究・学術部門は「公共直営型」で行うこととし、施設管理部門や物販・飲食・体験事業などの収益部門については、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用を基本として、「指定管理型」の事業手法で運営することを想定しております。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>
23	補助金や有利な地方債を活用してA案を実現していただきたい。	C	<p>博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。</p> <p>基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p>
24	博物館・図書館の公共性や職員の身分保障を考えると、指定管理者やPFIは疑問です。	C	<p>現時点の想定としましては、博物館の研究・学術部門や図書館は「公共直営型」で行うこととし、施設管理部門や物販・飲食・体験事業などの収益部門については、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用を基本として、「指定管理型」の事業手法で運営することを想定しております。</p>

4 事業手法に係る意見について（30件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
25	指定管理は、行政では施設の設置目的を達成できない場合に活用できる制度とのことだが、現在の町による運営のどこが問題で、それをどう改善したいのか、それは民間でなくてはできないことなのか、指定管理の目的について知りたい。	E	平成15年9月に地方自治法が改正され、普通地方公共団体が公の施設の管理を他の団体に行わせる従来の「管理委託制度」から「指定管理者制度」に変更されました。 その目的は、「多様化する住民ニーズに、より効果的、効率的に対応するため、公の施設の管理の民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上を図るとともに、経費の節減を図ること」とされています。 むかわ町恐竜ワールド構想推進計画では、具体的な施策・アクションプランの柱の一つとして「マーケティング戦略」を掲げており、その中で、核となる施設（穂別博物館）の魅力向上と地域資源を活用した産業振興を進めることとしております。 現在の、公共直管の手法に問題があるわけではなく、核となる施設の魅力を向上させ、交流人口拡大を図ることによる産業効果を町内に波及させるノウハウを持った民間事業者の参画を期待しているため、指定管理等の導入を想定しております。
26	指定管理は町が事業者に運営費を支払って代わりに運営してもらう制度だが、穂別博物館を指定管理にした場合、年間の運営費はどのようになるのか。独立採算を考えているとしたら、収支はどのように見込んでいるのか。「低コストで多様な事業展開」とあるが、具体的にどの経費がどのように削減されるのか。人件費も含めて教えてほしい。	E	穂別博物館は、博物館法第18条の規定に基づき設置されており、同法第23条では、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならないとされております。これを受け、多くの博物館では最低限の維持管理費を少額徴収するなど、博物館法により設置されている博物館は、本来的には収益確保を目的としていない施設（教育施設）といえます。 しかし、今回の計画では、物販・飲食・体験事業などの収益事業部門を包含した複合的施設として博物館運営を想定しており、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用を基本として、運営経費の削減を図っていくこととしております。 詳細は、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
27	穂別図書館も指定管理に含まれるのか。その場合、運営費はどのようになるのか。	E	今後、調査・研究を進めてまいります。
28	一般に、指定管理者制度は、住民サービスの質の低下など弊害が多いことから、国では、博物館・図書館など教育施設にはなじまないとしている。指定管理については懸念される点が多いので、別途説明と意見聴取をお願いしたい。	E	基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。

5 事業スケジュールに係る意見について（23件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
1	財政的な問題もあるが、早めのオープンが望ましい。 (同様の意見 他3件)	C	<p>「第10章 事業スケジュール(案)」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、スケジュールの再考や管理運営方法等を検討してまいります。</p> <p>また、博物館周辺エリアの再整備は、国道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。</p> <p>基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>
2	構想全体を見直すべきであり、現行のままでは認められない。 (同様の意見 他1件)	D	<p>本町では、平成27年度に策定した恐竜ワールド構想を地方創生のシンボル事業として位置づけ、人口減少や少子高齢化等の地域課題に対応した町民満足度向上とまちの活性化を実現する総合的な推進計画として、「恐竜ワールド構想推進計画」を策定しております。</p> <p>推進計画の中で、恐竜ワールド構想の核となる施設(種別博物館、発掘現場等)の魅力向上は、一連の活動の根幹を担う戦略であると位置づけております。</p> <p>持続的なまちづくりをしていく上で、町の強みである地域資源を経済的価値に変え、産業を興し、地域の雇用創出をしていくことが重要となってきます。</p> <p>さらに、「第6章 整備方針検討 6.1.2」に記載しているとおり、交流人口の確保を目的に整備された一連の施設群において、施設の老朽化の進行に加え、新たな基準に対応した耐震性能の確保、さらには展示内容の陳腐化に伴う利用客の減少などが進んでおり、インバウンド客の増加や白老町における民族共生象徴空間の整備など、日胆管内を取り巻く観光市場の急激な変化の中、交流人口の確保を目指すためには、各施設の有する機能の見直しが不可欠な状況となっておりますので、ご理解願います。</p>
3	町民の意見を計画に反映させる時間を取っていただけるようお願いしたい。 (同様の意見 他3件)	A	<p>「第10章 事業スケジュール(案)」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、町民説明会や出前講座を開催するなど、町民の皆様にご説明を行った上で事業を進めてまいります。</p>

5 事業スケジュールに係る意見について（23件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
4	パブリックコメントのスケジュールを再考すべきではないか。あるいは基本設計ができた時点で再度パブリックコメントを入れられないかと考える。 (建設費もさることながらその後の管理運営費にも注目しているため、その財源の出所、あるいは管理運営方法の方向付け等を示した上で町民に意見を求めるべきと考える。)	A	「第10章 事業スケジュール(案)」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、スケジュールの再考や管理運営方法等を検討してまいります。 また、博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
5	実施設計や基本設計は一緒の方が進めやすいのかと思う。	C	「第10章 事業スケジュール(案)」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、町民説明会や出前講座を開催するなど、町民の皆様にご説明を行った上で事業を進めてまいります。
6	計画(A~D案)は、ハドロサウルス科恐竜化石発見を契機にしたことは理解できるが、今の段階で多額の住民負担(建設費・運営費・今後のリニューアル費用)を決断することに賛成できない。今後期待できる新しい発見と研究成果、今のブームの動向等を見極め、熟慮すべき時である。	A	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
7	良いもの(お客さんがたくさん来る、化石や恐竜に興味をもつ人々が増える、地元の人々が関心を持ち誇りに思えるような施設)にするためなら惜しみなくお金や時間、労力を使っていいと思う。	C	「第6章 整備方針検討 6.1.2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。
8	スケジュールについては、町民の意見を踏まえた行政としての決断になるのではないかと。	C	「第10章 事業スケジュール(案)」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、町民説明会や出前講座を開催するなど、町民の皆様にご説明を行った上で事業を進めてまいります。

5 事業スケジュールに係る意見について（23件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
9	スケジュール案で良いとする。決定したら町民に必要な説明がされるよう望む。	C	「第10章 事業スケジュール（案）」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、町民説明会や出前講座を開催するなど、町民の皆様に説明を行った上で事業を進めてまいります。
10	あえて、2021年度のオープンにこだわるべきではないと考える。丁寧な議論の結果、町民の合意が得られた時点でスケジュールを組むべき。その間に発掘化石、レプリカ等の保管場所がない場合は、廃校体育館などを活用した一時保管措置を検討すべきである。	C	「第10章 事業スケジュール（案）」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、町民説明会や出前講座を開催するなど、町民の皆様に説明を行った上で事業を進めてまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
11	現スケジュールを1年くらい後ろに移動させるべきでは。大型事業であり町民への浸透理解が必要である。	C	「第10章 事業スケジュール（案）」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、町民説明会や出前講座を開催するなど、町民の皆様に説明を行った上で事業を進めてまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
12	地元や町民意見を取り込む計画づくりにしてほしい。 国や道等の関係機関との連携を取る方法を考えてほしい。	B	「第10章 事業スケジュール（案）」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、町民説明会や出前講座を開催するなど、町民の皆様に説明を行った上で事業を進めてまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
13	一日も早くとの想いもあるが、お客さんに飽きられないためにも、タイミングが難しい。加えて、オリンピック需要の後の方がコスト的に良いかと思う。	C	「第10章 事業スケジュール（案）」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、町民説明会や出前講座を開催するなど、町民の皆様に説明を行った上で事業を進めてまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。

5 事業スケジュールに係る意見について（23件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
14	できれば、「むかわ竜」熱が冷めぬうちに早く行うことが良いと思うが、現博物館と、この土地のつながっていることの重要性をアピールし、新館への期待をもたせる時間も必要ではないか。	C	「第10章 事業スケジュール（案）」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、町民説明会や出前講座を開催するなど、町民の皆様に説明を行った上で事業を進めてまいります。 また、さらなる町民の皆様の気運醸成を図ってまいります。
15	全体を一挙に完成させず、必要に応じて地元業者が増改築しても良いのでは。	C	「第10章 事業スケジュール（案）」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、町民説明会や出前講座を開催するなど、町民の皆様に説明を行った上で事業を進めてまいります。
16	基本計画書に、良いことが書いてあるだけで、具体的な収支計画や将来にわたって愛される博物館になるための事業計画があまり見受けられない。この状態で進めても、現状の博物館や地球体験館のような、赤字の経営になることが将来的に想像できてしまうので、工期を遅らせてでももっと慎重になるべきである。	C	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
1	前庭のガーデンスペースは芝生で子どもたちが自由に芝生の上で遊べるのが良いと思う。老人のためにベンチもあると良い。	A	「第7章 施設計画 7. 2. 3」に記載しているとおり、ガーデンの改修方針として、現況の樹木、地形を生かし、古生物が生息していた時代をイメージできる環境を表現し、家族連れなどが楽しめる空間を演出するよう工夫していくこととしております。 また、ベンチの設置に係るご意見については、参考とさせていただきます。
2	自動車免許を持っていない立場からすると、バス停からのアクセスの良さが大切かと思う。また、病院など周辺施設からのアクセスも考えてほしい。	C	バス停や周辺施設からのアクセスに係るご意見については、参考とさせていただきます。
3	穂別の中心街の歩道は、木の根の影響で歩きにくく危険。兵庫県西宮駅の北口は震災後、歩道を広く整備しており、ベビーカーを押しても安心して歩ける。北国と南国では気候が違うと思うが、穂別も同様の整備をすることは難しいだろうか。	C	中心街の歩道整備については、博物館周辺エリア再整備基本計画の対象外としている内容ではありますが、ご意見については、参考とさせていただきます。
4	博物館周辺エリアの再整備に当たっては、穂別のまちづくり全体を考えて行っていただきたい。公共施設などを集約したまちづくりを行っていただきたい。	C	公共施設の集約については、博物館周辺エリア再整備基本計画の対象外としている内容ではありますが、ご意見については、参考とさせていただきます。
5	名前のことで穂別地区や町外者が色々と言っているが、理解できる点もあるが、私は「むかわ竜」でいいと思う。合併して10年以上経過したが、こうした、旧町民意識はまだまだなくならないと思う。後20年～30年は続くのでは。	C	「むかわ竜」の名称について、恐竜化石発見者の意向を尊重した名称であること、さらに恐竜化石が産出された多くの自治体で市町村名を冠した呼び名を使用していることから、通称を「むかわ竜」としてまいります。

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
6	<p>むかわ町穂別博物館の最も重要な役割は、「穂別地域から産出する化石資料を収集・保管し、研究・調査して、次世代に伝えること」だと思う。この役割を果たすためには、町民として「どのような博物館が必要で、実現可能かを考えること」が今の課題だと考え、意見を述べさせてもらう。</p> <p>上記のような博物館にするには、まず「化石を保管・研究できる場」が必要だし、それらをより明確に「次世代に伝えるために展示し、体験・学習する場」が必要になる。</p> <p>保管する収蔵室は増え続ける現状を考えるとそれだけでもかなりのスペースが必要になるが、できるならば、その一部でも展示できる場、並べて見られる場がほしい。いわば、町内外の研究者・化石愛好家たちが、調査、学習、研究できる場でもあってほしい。</p>	C	<p>「第7章 施設計画 7. 2. 3」に記載しているとおり、現かせぎ学習館の研究機能を体験学習棟（現穂別博物館）へと移転し、資料の収集・保存機能を中心としてまいります。</p> <p>また、平成26年に北海道大学総合博物館と相互協力協定を結んでおり、平成30年には、古生物学の研究・普及啓発や地域振興をはじめとする相互協力事項について、連携・協力関係を深めるため、「北海道大学総合博物館古生物学研究分室」の設置を予定しております。これにより北海道大学の教官や学生が今まで以上に頻繁に当館を訪れ、滞在するようになり、当館の所蔵する化石の調査・研究や、当町の地質や地史について解明がより一層、進行していくことを期待しています。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>
7	<p>展示室は、主として一般の人々に、この地域に産出する化石を楽しく学習してもらおう場だが、次世代に伝えることを中心に据えると、特に子どもたちを対象にすべきだと思う。ただし、その想いは、単に楽しさおもしろさを追求することではなく、「楽しみながら学びを深める」ことだと考えている。</p> <p>展示は「古生物の動物園。水族館のイメージで」という考えがあるようだが、化石を古生物としっかり認識し、楽しんでもらうためにも、そのことを頭に置き、出てきた一部の化石のみを展示するのではなく、できうる限りだが、全身骨格や復元像、周りの生き物たちを含めた環境がわかるよう考え、どのような生活をしていたのか、想像される展示であってほしい。</p>	C	<p>「第7章 施設計画 7. 1. 3」に記載しているとおり、新たな博物館は、子どもや家族連れをメインターゲットとしています。</p> <p>また、「第7章 施設計画 7. 1. 2」に記載しているとおり、展示内容は、分かりやすく、興味をひく内容を心がけ、化石に親しみをもち、理解を深められるような展示をめざします。</p> <p>展示については実物化石にこだわり、補完する役割として全身復元骨格や生体模型を配置します。そして、化石を当時の生態系や環境との関わりの中でとらえ、化石が過去の生物であると実感でき、生きていた当時の姿などを想起できるような展示をめざします。</p>
8	<p>往々にして常設展示室は、一度作られると後はそのままということが多く、「一度見たらそれで終わり」という感じがするという館が多い。確かに、たびたび展示替えをするのは困難だろうが、当館の実情を考えると、また新しい化石が発見される可能性が高いし、今後寄贈されたレプリカの交換等により展示物が増える可能性が高いし、学芸員の研究と必要な展示替えが継続的に行われている。</p> <p>このことを考えると、「展示室は、できるだけ大きなスペースでゆとりが必要だし展示物はできるだけ移動可能にして、小規模な展示替えができるよう考えておく必要がある。町民が楽しみ学ぶことに留まらず、全国の人たちに向かって「世界的にも価値ある化石・博物館であること」を発信していける館であることを再度確認しあって、今後永年に渡って多くの人に親しみ繰り返し訪れてもらえる博物館にしたい。</p>	C	<p>「第8章 展示計画 8. 3」に記載しているとおり、展示更新や入替え、追加に容易に対応できる手法を検討し、収集活動や研究活動の成果を随時反映することで、最新の知見や研究成果を適時発信できる展示とすることできるよう整備を進めてまいります。</p> <p>また、博物館活動を続けることにより、今後も収蔵資料は増加し、新たな研究成果が生まれていくこととなりますので、その成果を常に反映できる、多くの人々に親しまれる博物館づくりをめざしていきたいと考えております。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
9	<p>素人考えでは、「良い博物館を目指すほど多くの予算が必要」となり、「先の住民に借金を残しているのか」という考えが、当然出てくと思う。しかし、「今のままでは、この先町自体が自立できなくなりかねない」という出発点の課題を考えると、今後のむかわ町を担う若者たちも参加して「予算決定に参加していく」ことが重要と思う。むかわ町の生き残りをかけた、街づくりの原点と思うから。</p> <p>もちろん個人としても、「博物館として必要なことはどんなに金がかかってもすべきだ」と考えているわけではない。しかし、限られた予算だからこそ、捻出できる予算が決まったら、その全てを博物館のリニューアルにかけ、周辺のこと「博物館づくりにどうしても欠かせないこと」以外は出費すべきではないと思う。また、館そのものについても、見かけを整えたり、装飾的なこと、単に便利さを求めるもの等については、排除すべき。博物館としての素晴らしさを求めることにこそ予算をかけるという姿勢で臨んでほしい。重要なことは「次世代を担う若者たちの声」を聞き、「リスクがあってもすばらしく先にいっても活用できる博物館を建てるのか」「堅実に、次世代に借金を残さないことを重視し、そこそこの博物館を建てる」ことを選ぶべきか、「若者たちが判断すること」が重要だと思う。博物館づくりは、まちづくりそのものだし、次世代のものはずだから。</p>	C	<p>博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。</p> <p>基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p> <p>また、未来のむかわ町を担っていく若い世代の声にも耳を傾けながら、事業を進めてまいります。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>
10	<p>民間への委託等に係わっては、町民が考えている生涯学習の場としてのコンセプトが生かされ、町民が務め町民が益を得る場となることが踏まえられていることが、条件となると思う。人を呼び込むことだけが優先し、テーマパーク化して、怪獣やお遊びまがいのものが幅をきかすようになっては「むかわ町穂別博物館」では無くなってしまふ。</p>		<p>「施設の整備および研究部門の運営については、公共が直営で実施」とするとともに、「施設の管理・運営（研究部門を除く）」については、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用」を基本として、「指定管理型」の事業手法を進めることを想定しております。</p>
11	<p>稲里地区から全身骨格が発掘された恐竜化石を「むかわ竜」に決める際のプロセスに町民の存在があったか、学術的な判断や先進事例も参考に進めてきたのだと思うが、穂別地区の住民意識はもっと土着的であり閉鎖的。一方、鷓川地区は極論だが大した興味もなく行政の進め方を理解している振りをしていただけなのではないか。つまり、本計画は穂別地区の理解と参加なくして進まないことばかりである。</p>	D	<p>町民総意の取組としていくために、さらなる気運醸成を図ってまいります。</p>

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
12	<p>稲里地区の発掘現場を野外博物館化すべきではないか。</p> <p>本計画によると稲里地区の発掘現場の利用計画が示されていない。需要を見つつ、いずれは計画を立てるのか。野外博物館としての具体的なプランは当初から示すべきで、段階的な整備手法も取り入れ、全身骨格の発掘というインパクトを最大限アピールして利用客の関心を引き寄せざるべきと考える。歯の化石1本で大々的に博物館事業を展開しているところもあると聞いているが、ストーリー性がいかに大切か、そのノウハウを先進事例に学ぶべき。</p>	C	<p>むかわ町恐竜ワールド構想推進計画の中で、恐竜ワールド構想の核となる施設（穂別博物館、発掘現場等）の魅力向上は、一連の活動の根幹を担う戦略であると位置づけております。</p> <p>そのため、稲里地区の発掘現場の利用計画については、その保全と体験学習の場としての活用を考えております。</p>
13	<p>博物館の観覧だけで利用客を帰してしまうのは無策過ぎるのではないか。せっかく山奥まで来た利用客の滞在時間を最大限に引き延ばす。そのため利用客のニーズにどう応えるのか。</p> <p>例えば、食事（地元食材を活用したレストラン）の提供、関連グッズ（恐竜フィギュアの自販機）の販売、地元特産物の販売、「インスタ映え」の感覚を沸き立たせるスポットづくり、カメラ女子がズームインやフォーカスしたくなる景観づくり、パワースポットをつくる（アンモナイトの形を利用しては）、パワーフーズがほしい。</p>	C	<p>町では、穂別稲里地区で発掘された、恐竜全身骨格化石（むかわ竜）の持つ、学術的・教育的・資産的・戦略的・産業的価値に着目し、町全体をステージとした「恐竜化石を活かしたまちづくり」を推進しています。</p> <p>その施策の一つとして、交流人口拡大を目的とした、恐竜を核とした体験型旅行商品・体験学習の開発、ガイドの育成や恐竜関連グルメ等の開発を進めているとともに、国の地方創生推進交付金を活用して恐竜ワールド構想の推進母体となる組織の整備や恐竜関連グッズ等の開発、地域資源を活用した気運醸成やPR活動を進めることを予定しており、これらの取組による産業効果を町全体に波及させることをめざしております。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>
14	<p>中村記念館の活用を検討してはどうか。</p> <p>現在、国の有形文化財の登録を受けているということですが、原型を保ちながら和室等を利用してコーヒーショップや蕎麦店などの軽食を提供してはどうか。つまり博物館事業も客商売でありサービス事業としての位置づけを忘れてはいけないのではないか。当面、アースギャラリー等を最大限に活かし利用客の購買意欲をかき立てる手立てを用意すべきではないか。</p>	A	<p>「第7章 施設計画 7.2.8」に記載しているとおり、中村記念館について、現状の施設機能を維持管理するとともに、気軽に楽しめる施設として活用することとしておりますが、具体的な活用方法については、ご意見の趣旨を踏まえ、検討してまいります。</p>
15	<p>地元の民間企業を喚起させる手立てを考えてはどうか。</p> <p>町の起業化支援制度を活用し（上乘せ制度も検討）レストラン等の開店を民間に喚起させる手立てを考えられないか。そのためにもオールシーズンで博物館をメインとした穂別地区に客を引き寄せる手立てを考えたいと思う。</p>	C	<p>町では、穂別稲里地区で発掘された、恐竜全身骨格化石（むかわ竜）の持つ、学術的・教育的・資産的・戦略的・産業的価値に着目し、町全体をステージとした「恐竜化石を活かしたまちづくり」を推進しています。</p> <p>その施策の一つとして、交流人口拡大を目的とした、恐竜を核とした体験型旅行商品・体験学習の開発、ガイドの育成や恐竜関連グルメ等の開発を進めているとともに、国の地方創生推進交付金を活用して恐竜ワールド構想の推進母体となる組織の整備や恐竜関連グッズ等の開発、地域資源を活用した気運醸成やPR活動を進めることを予定しており、これらの取組による産業効果を町全体に波及させることをめざしております。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
16	<p>管理運営等に指定管理者を採用する場合、民間のノウハウを管理運営のどこに求めるのかが重要で、本計画からはその分野が見えてこない。例えばミュージアムショップにテナントを入れる程度になるか。</p> <p>委託先を観光協会や恐竜ワールドセンター（四季の館の例で法人化）の地場活を採用する案はどうか。利用料を充当しても大半の管理運営費は公的資金を充てることになる。</p> <p>管理運営面で先進事例もあるという民間のノウハウを取り入れる方法はどんな内容なのか知りたいところであるが、一体的な管理運営なのかそれとも一部なのか。</p>	E	<p>「施設の整備および研究部門の運営については、公共が直営で実施」とするとともに、「施設の管理・運営（研究部門を除く）」については、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用」を基本として、「指定管理型」の事業手法を進めることを想定しております。</p> <p>また、可能な限り地元団体への委託ができるよう検討してまいります。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>
17	<p>関連施設の冷暖房で主体燃料に木質バイオマス等の自然エネルギーを採用してはどうか。</p> <p>現行の関連施設燃料が何かは把握していないが化石燃料は似合わないのではないかと。広域森林組合のご当地として木質バイオマスや自然エネルギー等を検討するべきではないか。</p>	C	<p>再生可能エネルギーの導入に係るご意見については、参考とさせていただきます。</p>
18	<p>展示棟の主材料は地場木材を利用してはどうか。</p>	C	<p>木造建築にした場合、コンクリート建築に比して事業費が増大する可能性も考えられますが、ご意見については、参考とさせていただきます。</p>
19	<p>戦略1の「新博物館建設」以外の戦略も同時並行して進めてほしい。</p> <p>町に関わる検討組織や専門コンサルの意見は一定程度の方向付けは必要だろうが、民間の活力や地元力を活かすとなれば、実際に関わる住民の参加が外せない。</p> <p>例えば恐竜ワールドセンターの面々、あるいは本計画に地元力として参加する意欲のある町民、組織等の直接的参加が計画遂行のモチベーションを上げるべきと考えますし、計画の具体例を提示してこれにこそパブリックコメントを求めるべきだと考える。</p>	C	<p>町では、穂別稲里地区で発掘された、恐竜全身骨格化石（むかわ竜）の持つ、学術的・教育的・資産的・戦略的・産業的価値に着目し、町全体をステージとした「恐竜化石を活かしたまちづくり」を推進しています。</p> <p>その施策の一つとして、交流人口拡大を目的とした、恐竜を核とした体験型旅行商品・体験学習の開発、ガイドの育成や恐竜関連グルメ等の開発を進めているとともに、国の地方創生推進交付金を活用して恐竜ワールド構想の推進母体となる組織の整備や恐竜関連グッズ等の開発、地域資源を活用した気運醸成やPR活動を進めることを予定しており、これらの取組による産業効果を町全体に波及させることをめざしております。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
20	<p>恐竜ワールド構想推進計画の進展は未だに生煮えの状況であり1～5の戦略計画に基づく試みも行政ベースに止まっているものもある。</p> <p>強いて言えば戦略1で示されている「新博物館建設」だけが具体化しているように目に映る。本構想で一番の難問は新博物館建設もさることながら、ほかの戦略についての進め方で行政が期待する地元力の参加をどのように掘り起こし、参加させるかのきっかけを創ることがほしいと考える。</p> <p>できればそれらの進捗状況、例えば現在進められている状況成果を示すことも本計画の理解につながるのではないかと。単にほかの戦略が項目立てに終わってしまわないように、本計画の根幹として位置づけることが重要ではないかと考える。</p>	C	<p>現在の恐竜ワールド構想の進捗状況について、戦略3（地域資源を活用した産業振興）においては、化石発掘体験のモニターツアーの実施や民間事業者と連携した恐竜関連グッズ等の開発、戦略4（広報・情報発信・プロモーション）においては、北海道150年事業サイエンスフェスティバルへの出展（むかわ竜・ティラノサウルス）をするなど推進計画に基づく各種施策を進めております。</p> <p>進捗状況の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p>
21	<p>本計画のメインは新博物館の存在である。20億円という高額な建設費をどのように捻出するかは行政の手腕にかかっており、それが町民の不安につながっていくのであれば数年をかけ計画立てをしていき本計画に対して町民は懐疑的になる。しかし、進めるからには本計画のコンセプトが十二分に発揮される新博物館の誕生で穂別地区の町が恐竜公園として内外に広がっていくことを期待している。</p>	C	<p>博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。</p> <p>基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>
22	<p>人口減少、地方交付税減少など、これから住民サービスが大変になるなか維持管理費がかかるものはいらない。</p>	D	<p>むかわ町恐竜ワールド構想推進計画の中で、恐竜ワールド構想の核となる施設（穂別博物館、発掘現場等）の魅力向上は、一連の活動の根幹を担う戦略であると位置づけております。</p> <p>施設の維持管理については、博物館の研究・学術部門は「公共直営型」で行うこととし、施設管理部門や物販・飲食・体験事業などの収益部門については、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用を基本として、「指定管理型」の事業手法で運営することを想定しており、経費の縮減を図ってまいりますので、ご理解願います。</p>

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
23	人が多く来てもお金を落とすところがない自治会の中で賛成の人は皆無。	C	町では、穂別稲里地区で発掘された、恐竜全身骨格化石（むかわ竜）の持つ、学術的・教育的・資産的・戦略的・産業的価値に着目し、町全体をステージとした「恐竜化石を活かしたまちづくり」を推進しています。 その施策の一つとして、交流人口拡大を目的とした、恐竜を核とした体験型旅行商品・体験学習の開発、ガイドの育成や恐竜関連グルメ等の開発を進めているとともに、国の地方創生推進交付金を活用して恐竜ワールド構想の推進母体となる組織の整備や恐竜関連グッズ等の開発、地域資源を活用した気運醸成やPR活動を進めることを予定しており、これらの取組による産業効果を町全体に波及させることをめざしております。 ご意見については、参考とさせていただきます。
24	今の博物館の改装では読書コーナーが博物館側の休憩所になりそう。	E	図書館の読書コーナーの活用に係るご意見については、参考とさせていただきます。
25	バス、障害者用の専用駐車スペースが必要。	C	バス、障害者用の専用駐車スペースについて、ご意見の趣旨を踏まえ、検討してまいります。
26	改装ではめ殺しの窓が通常の窓になるのか。	E	窓の構造については、現在検討中です。
27	図書館の本を増やせるスペースがない。	C	「第7章 施設計画 7. 2. 2」に記載しているとおり、図書館機能を拡充することとしております。 ご意見については、参考とさせていただきます。
28	建物内のトイレは女性トイレを増やさないと混むと思う。また、トイレの扉は外開きかスライドタイプにしないと、トイレ内で何かあった時に助けられなくなる。	C	トイレの数・構造に係るご意見については、参考とさせていただきます。
29	新しい博物館の設計図を見てまた意見したい。	C	町民の皆様のご意見をお聞きしながら、博物館周辺エリア再整備を進めてまいります。

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
30	むかわ竜は世界的に誇れる発見であり、学術的に大変貴重であることは十分に認めるが、そもそも町単独で実施する構想は、将来の人口推計からみても非常に無理がある。	C	<p>本町では、平成27年度に策定した恐竜ワールド構想を地方創生のシンボル事業として位置づけ、人口減少や少子高齢化等の地域課題に対応した町民満足度向上とまちの活性化を実現する総合的な推進計画として、「恐竜ワールド構想推進計画」を策定しております。</p> <p>推進計画の中で、恐竜ワールド構想の核となる施設（穂別博物館、発掘現場等）の魅力向上は、一連の活動の根幹を担う戦略であると位置づけております。</p> <p>持続的なまちづくりをしていく上で、町の強みである地域資源を経済的価値に変え、産業を興し、地域の雇用創出をしていくことが重要となってきます。</p> <p>さらに、「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、交流人口の確保を目的に整備された一連の施設群において、施設の老朽化の進行に加え、新たな基準に対応した耐震性能の確保、さらには展示内容の陳腐化に伴う利用客の減少などが進んでおり、インバウンド客の増加や白老町における民族共生象徴空間の整備など、日胆管内を取り巻く観光市場の急激な変化の中、交流人口の確保を目指すためには、各施設の有する機能の見直しが不可欠な状況となっておりますので、ご理解願います。</p>
31	現時点で国、道に対し補助を検討していること事態、計画性に無理がある。このまま、事業が進むのであれば、将来町民負担は莫大になることが十分に予測される。基金積立約90億円を事業費に充当することを考えているのであれば本末転倒である。	D	<p>博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。</p> <p>基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>
32	民間事業であれば、事業の収益性・事業効果・将来のランニングコストを詳細に事業計画として説明するが、今計画は事業費のみの説明で到底町民に理解を得られる内容とはいえない。	C	<p>博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。</p> <p>基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
33	廃校となった学校や現在活動している（有）ゴビサポートの施設の再整備等研究等を中心とした構想もあって良いのでは。	D	博物館活動としての収集・保管、調査・研究、教育・展示のそれぞれの活動は一連のものであり、効率良くかつ効果的に行っていくためには、各活動に関連した施設が一カ所に集約されていることが望まれます。すなわち、収蔵庫、研究室、体験学習室、展示室は、互いに隣接していることが理想となります。このことから今回の整備計画は、既存施設（化石学習館、現博物館）の活用および転用と、それに隣接した新たな展示棟の建設を予定しています。 そのため、既存施設から離れてしまうこととなる統廃合された学校などの活用は現在のところ予定しておりません。
34	「むかわ竜」という通称を、旧穂別出身者による「ほべつ竜」への変更を求める事自体、恐竜ワールド構想の危機ではないか。もう一度立ち止まって、考えても良いのでは。	C	「むかわ竜」の名称について、恐竜化石発見者の意向を尊重した名称であること、さらに恐竜化石が産出された多くの自治体で市町村名を冠した呼び名を使用していることから、通称を「むかわ竜」としてまいります。
35	将来人口が4千人弱になったら、巨大建物の維持はできないと思うので、より具体的な事業計画が示されるまでは、私は反対する。	C	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
36	まず、時間がかかっても、国立や道立博物館（化石・地質分館、自然史博物館等）、北大総合博物館の分室等の誘致に全力をかけるべきである。当面は、現有施設（博物館中庭、図書館部分、かせき学習館）を工夫して最大限の投資で抑え、将来に備えて10年くらいかけて自己資金を準備する。	C	「北海道大学総合博物館古生物学研究分室」の設置を予定しており、古生物学の研究・普及啓発や地域振興をはじめとする相互協力事項について、北海道大学総合博物館と連携・協力関係を深めてまいります。 博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
37	町報資料では、入館者の見通し（新聞記事で35,000人と出ていたが）、それに基づく毎年の管理費、収支見通しなどの記述がなく、ハドロプームのピークはあっても、開館以来2万人に届くかどうかの入館者と聞いている。仮に35,000人を用いても入館料収入は1千万円にも満たない。面積1,600㎡増えると人的、物的経費がいくらかかるかを示して町民の意見を聞いてほしかった。	C	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
38	今は、ハドロサウルス科恐竜の全身骨格化石で盛り上がっているが、プームは浮き沈みあることは実証済みである。また、旧穂別町時代、もくろみはずれの失敗例は地球体験館で実証済み、合併時の負の遺産とさんざん言われた苦しい体験を無駄にしないでいただきたい。 人口の大幅な減少見通しの下で、財源は主に起債と伝えられてくる。10年くらいかけ自己資金をできるだけ積み立て、その間にプームの盛衰や新発見の努力、国立・道立、北大などの研究室の誘致に努力をし、身の丈にあった施設を十分検討すべき。議会で大いに議論していただきたい。	C	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
39	博物館は全国、世界に発信できる数少ない集客施設であることに異存はないが、建設案実行は時期尚早という意見である。2段階方式（現有施設の有効活用で当面のぎ、推移や変化を見極めて判断する。平行して広域圏などの協力を得て誘致活動を進める）で考える。	C	「第10章 事業スケジュール（案）」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、町民説明会や出前講座を開催するなど、町民の皆様にご説明を行った上で事業を進めてまいります。
40	ハドロサウルス科恐竜の発見が脚光を浴びたのは、小林先生、佐藤先生とそのスタッフの力、化石愛好家や博物館学芸員、クリーニング技能者などの総合力にほかならない。今後の新たな発見（ビックな発見が控えている話も聞く）を支援するためにも、外国の人を含む外部の研究者や学生の長期滞在をサポートする施設（宿泊付きセミナーハウスやゲストハウス）または負担軽減施策を急いであげるのが、次の成果、発展につながると思う。	C	外部の研究者や学生の長期滞在をサポートする施設は、現状、若者交流センターをはじめ、町内の旅館施設を活用しております。今後、北海道大学総合博物館古生物学研究分室の開設が決定しており、多くの学生が穂別博物館で研究活動のために来町することが想定されますので、ご意見の趣旨を踏まえ、長期滞在をサポートする支援策等の検討を進めてまいります。

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
41	<p>TPP農業対策、林業の町にふさわしい条件整備、前浜漁業対策、人口減少対策としての生活環境整備等の生活直結施策より大型博物館建設の優先度が高いとは現時点で考えにくい。</p>	C	<p>町では、産業振興施策を最優先とし、各施策を進めております。</p> <p>一方、平成27年度に策定した恐竜ワールド構想を地方創生のシンボル事業として位置づけ、人口減少や少子高齢化等の地域課題に対応した町民満足度向上とまちの活性化を実現する総合的な推進計画として、「恐竜ワールド構想推進計画」を策定しております。</p> <p>そのため、恐竜ワールド構想も優先順位が高い施策といえます。</p>
42	<p>この意見募集さえも知らない、気づいていないという町民が多すぎる。</p> <p>町の広報ではなく新聞折り込み広告へ概要と意見書を入れ、各家庭へ配布するほうがより多くの町民に目にされやすいと思う。</p> <p>不満や反対意見が後から出てこないように、町民が博物館新設計画に理解し納得できるまでまだまだ意見を募ったほうが良いのではないかとと思う。</p>	C	<p>「第10章 事業スケジュール（案）」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、町民説明会や出前講座を開催するなど、町民の皆様説明を行った上で事業を進めてまいります。</p>
43	<p>これまで運営してきた博物館の入場者数は年間何人ペースで推移してきたのか。「1万人未満」という書き方ではなく、はっきりとした数値での人数が知りたい。（むかわ竜化石発表前の年間入場者数を知りたい。）</p>	E	<p>博物館観覧者数(年間)は、平成20年：9,969人、平成21年：10,242人、平成22年：10,187人、平成23年：9,982人、平成24年：9,116人、平成25年（むかわ竜発表）：10,307人、平成26年：10,951人、平成27年：9,742人、平成28年：11,506人、平成29年：19,389人で推移しております。</p>
44	<p>平成29年度の入場者数が19,000人弱と記載があるが、日本最大の化石発見という一番大きなニュースが何度も放送されての人数が19,000人である。新築での博物館プランでは「年間35,000人」もの入場者数を目論んでいるが、恐竜化石発見というニュース放送があった年の1.8倍もの入場者数を見込んでおり、その集客方法やそれだけの人を呼べるという根拠は何だろうか。</p>	E	<p>平成29年度は、むかわ竜の全身骨格の報道会見、NHKスペシャルの放送、むかわ竜の実物化石の公開などが功を奏し、年間観覧者数19,389人という平成9年以来最大の数字となりました。</p> <p>一方、想定数の35,000人とは、前回の展示更新が実施された翌年である平成5年の35,035人という、穂別博物館の過去最大人数に基づいた数字となっております。</p> <p>現在計画されている整備計画が実施された場合には、むかわ竜の全身復元骨格だけではなく、「海と陸の自然史博物館 ー古生物の水族館・動物園をめざすー」というコンセプトに基づき、展示内容が大幅に増強され、大きな誘因要素となります。さらに既存の博物館の改修により、化石に関する体験学習も積極的に実施いたします。</p> <p>これらのことから、過去最大人数の35,000人という数字は十分に達成できるものと考えております。</p>

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
45	3年後、5年後、10年後の入場者数の計画はどのように想定しているのか。	E	単に博物館への入館者のみを想定するのではなく、博物館側が主催する発掘体験やクリーニング体験、恐竜フィギュア創作体験などの体験学習事業（収益事業）を目標に訪れる方々も含めて、年間来訪者数35,000人を維持していくことを想定しております。
46	恐竜化石は「ブーム」なので人気は長続きしない。必ず入場者数は減少する。20億円相当の費用を計上しているが、これは適切な金額なのだろうか。	E	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。ご意見については、参考とさせていただきます
47	老朽化による博物館の改装が必要なのであれば現状規模での改装を希望する。むかわ竜の展示については「レプリカ」なので、大きな建物を必要とするような屋内にこだわる必要はないと思う。	C	「第7章 施設計画 7.1.1」に記載しているとおり、新たな博物館のコンセプトは「海と陸の自然史博物館 ー古生物の水族館・動物園をめざすー」としております。これを実現するためには、町内から豊富に発見されている化石資料を効果的に展示できるための十分な広さが必要となります。 また、「第8章 展示計画 8.3」に記載しているとおり、展示は実物化石にこだわり、それらを補完する役割として全身復元骨格（レプリカ）などを配置することを考えています。むかわ竜の展示方法について、詳細はまだ確定してはおりませんが、仮に、組み立てたレプリカと合わせて実物化石を展示することとなった場合、全長8m、全高3.8mの全身を平面に配置できるだけの場所が必要となります。 さらに、レプリカのみでの展示となっても、同時代のティラノサウルスなどと合わせて展示することから、相応の広さが必要となります。レプリカといえども、むかわ竜の複製であり、当町にとっては重要な標本であることに変わりはないため、安全に展示できる屋内施設は必須となります。
48	「穂別地区まで遠い」という意見がとても多く聞かた。時間が無くがっかりして帰る方も多く見受けられた。穂別にレプリカを作るのであれば、鷗川地区来町者にも喜んでいただけるように鷗川地区にも同様のレプリカを設置していただきたいと思う。	C	恐竜ワールド構想は、まち全体をステージとして展開していくこととしております。 そのため、鷗川地区へのレプリカ等の展示や物販等も含め、ご意見の趣旨を踏まえ、検討を進めてまいります。

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
49	以前、博物館来館者に展示の説明がわかりにくいと言われたことがある。専門的な言葉ばかりだと難しいので、くだけた感じの説明があれば、展示している化石などに親しみやすいと思った。	C	「第8章 展示計画 8. 3」に記載しているとおり、五感を用いて楽しく理解できる展示として、視覚以外にも聴覚や触覚などを使って体感できるハンズオン展示などを展開し、観覧者がむかわ町の古生物に親しみを持てる展示手法を検討します。 また、専門的な情報を紹介する一方で、分かりやすい表記を心がけ、子どもなどにも理解しやすく興味をもってもらえるような展示をめざしております。 加えて、「第7章 施設計画 7. 2. 1」に記載しているとおり、展示棟（新設）では、地球体験館のガイド機能を取り入れ、分かりやすい案内ガイドを行うこととしております。 ご意見については、参考とさせていただきます。
50	「むかわ竜」の名称について、今さら変更云々にこだわるところではないと思う。貴重な研究資料を多数有する穂別博物館であり、町の宝として、恥ずかしくない道を進んでほしい。	B	「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。
51	博物館周辺エリアについては、どの案でも構わないが、どうせ建てるのであれば、集客が見込める魅力あるものを建てていただきたい。 むかわ竜の名称問題で大変そうだが、むかわ町民からしてみると、現在住んでいる住民からの意見を優先すべきだと思う。3, 000人の署名があるそうだが、そもそも現在住んでいない人の意見は聞く必要がないと思う。若い世代は地区に関係無く、一つになり、活動しようとしている最中であり、そういった団体組織の活動に水を差すようなことは絶対あってはならない。 交流人口を増やすには、むかわ竜は良いキーワードだと思うので、産業間においてもリンクさせながら、むかわ竜を発信できればいいと思っている。そのためにも、ただ建てただけの博物館ではなく、今まで見たことのないようなものができるとうれしい。	B	「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。 また、「むかわ竜」の名称について、恐竜化石発見者の意向を尊重した名称であること、さらに恐竜化石が産出された多くの自治体で市町村名を冠した呼び名を使用していることから、通称を「むかわ竜」としてまいります。 加えて、若い世代の自発的な活動はまちづくりの原動力となるものであると考えておりますので、ご意見については、参考とさせていただきます。
52	「新たな博物館のめざす姿」を是非とも実現してほしい。	B	「第6章 整備方針検討 6. 1. 2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
53	<p>むかわ町は、他の国内恐竜化石発掘地（福井県、神流町、丹波市、御船町など）に比べ、観光集客面で不利な立地にある。そのため無理な競合を避け、来訪客の数よりも質を重視するのが良いと思う。</p> <p>食事処や宿泊施設は不便だが、白亜紀の「海・陸」化石が幅広く出土するパワースポットとしてまじめなマニアを引きつける戦略が有効と考える。</p>	C	<p>新たな博物館の再整備により、来訪者数が増加することも期待しておりますが、来訪者の観光消費額を高めることが、地域経済を循環させるために必要なことと考えており、恐竜を核とした体験型旅行商品の開発、ガイドの育成や恐竜関連グッズ・グルメ等の開発を進めることでその実現をめざしております。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>
54	<p>当町の博物館やその活動によって得られた「むかわ竜」などが世界的にも注目されているのは、博物館活動を継続的に続けてきたからだと言える（博物館は非営利で、教育的な施設との基本的な考え方で、それらを観光につなげるのは別の部署や別の団体という考え方）。</p> <p>さらに、小規模・少人数（学芸員ら）の活動で成果を出してきたのは、専門性を絞った（この場合は化石・古生物）活動を続けてきたからである。これまでの活動成果を引き続き将来に残すこと、さらに活弁な博物館活動を進めるためには、理念となる部分を変更しないことが肝要である。</p> <p>例えば、資料の収集・保管、調査・研究、教育・普及・展示を基本的に1箇所で行うこと（ただし教育・普及は外で行うことも多い）。学芸員を継続的に配置し、それとは別に事務員も配置すること。来館者数の増減を極端に気にしないこと。博物館に収益を求めないことなど。（この理念を守らないと、観光としても成功しないし、第2のむかわ竜の発見も期待できなくなると思う）。</p>	C	<p>「第7章 施設計画 7. 2. 3」に記載しているとおり、現穂別博物館は展示機能を展示棟（新設）へと移設し、研究機能及び体験学習のための施設に改修します。</p> <p>また、かせき学習館は資料の収集・保存機能を中心とした整備を検討しております。</p> <p>穂別博物館は、博物館法第18条の規定に基づき設置されており、同法第23条では、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならないとされております。これを受け、多くの博物館では最低限の維持管理費を少額徴収するなど、博物館法により設置されている博物館は、本来的には収益確保を目的としていない施設（教育施設）といえます。</p> <p>しかし、今回の計画では、物販・飲食・体験事業などの収益事業部門を包含した複合的施設として博物館運営を想定しており、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用を基本として、運営経費の削減を図っていくこととしております。</p> <p>今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>
55	<p>化石・古生物系の博物館は、道内に数えるほどしかないこともあり、当町の博物館には他市町村から産出した重要な化石も持ち込まれている。こうした資料は、当博物館に持ち込まれたからこそ、その資料の価値が守られたといえる（たとえば遠別産の翼竜、小平町産の首の短い首長竜など）。町立の博物館なので地元のを重視するのは理解できるが、他市町村産の穂別博物館収蔵資料を排除するかのように捉えられる基本計画「7.1.2 (2) むかわ町穂別産の化石（古生物）にこだわる」という理念は好ましくないので修正すべきだと思う。</p>	C	<p>「第7章 施設計画 7. 1. 2」に記載しているとおり、「ここにしかない博物館」を作り上げるために、むかわ町穂別産の実物化石を中心とすることを新たな博物館のめざす姿の一つとして掲げておりますが、他市町村産の穂別博物館収蔵資料を排除する意図はありませんので、ご理解願います。</p>

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
56	小さな町の町立の博物館であるにも関わらず、穂別地区のものにこだわるという理念では、同じ町である鶴川地区の住民の理解を得て、活動を続けるのは難しいと思う。化石・古生物を専門とした活動であっても、鶴川地区で採れる現生の貝類に関する調査や、むかわ町に生息する動物の骨格模型を制作するなど、古生物の調査・研究と密接につながる博物館活動の展開も可能である。こうした理由から「むかわ町穂別産の化石にこだわる」でなく、「むかわ町の化石（古生物）を中心として」という文言に変更すべき。	A	ご意見の趣旨を踏まえ、鶴川地区との関連性も示すために、「むかわ町穂別産の化石にこだわる」ではなく、「むかわ町の化石（古生物）を中心として」という文言への修正してまいります。
57	博物館活動を続けるにあたって、収蔵庫などが狭いと感じる。むかわ町をはじめ北海道内からは保存状態がよく、世界に誇れる化石が多産するが、コレクターによって採集された資料の受け入れ場所が問題となる。特に北海道のコレクターが高齢化してきているので、それらの受け入れが望まれる。そうしたコレクションは、今後の化石の調査研究を進めるにあたって重要な役割を果たすと期待される。加えて、大きな収蔵庫を作ることができれば、その後の活動に大きな余裕が生まれるので、できるだけ収蔵庫を大きくした方が良いと思う。	C	「第7章 施設計画 7. 2. 3」に記載しているとおり、かせき学習館は資料の収集・保存機能を中心とした整備を検討しております。ご意見については、参考とさせていただきます。
58	ゴビサポート・ジャパンが近くで活動しているので、モンゴルの恐竜に関する事業をむかわ町でも共同で進める可能性がある。その一環として、モンゴル産の恐竜レプリカを継続的に受け入れるという事業も考えられる。こうしたことを続けられれば、北海道だけでなく、日本有数の恐竜博物館として成長することも可能で、観光面にも大きな影響を与える博物館に成長できる可能性が生まれる。そうしたものを受け入れるにあたって、広い収蔵庫が必要である。	C	「第7章 施設計画 7. 2. 3」に記載しているとおり、かせき学習館は資料の収集・保存機能を中心とした整備を検討しております。ご意見については、参考とさせていただきます。
59	図書館が引き続き博物館施設に併設される計画には反対。理念や活動形態が異なっているものを同じ施設に置いて活動することは、それぞれの活動にとって弊害となる。特に当町の博物館はこれまでの博物館活動に加えて、交流人口増加など観光面での利用も期待されてくると思うので、こういう際に違う施設（特に観光面と関連の小さい施設。交流人口を増やすことが理念や目的に入っていない施設）が併設していることは観光面での活動を活発にする際に弊害になる。	C	「第7章 施設計画 7. 2. 2」に記載しているとおり、展示機能を展示棟（新設）へと移設し、研究機能および体験学習のための施設に改修します。それに伴い、博物館機能と図書館機能を明確に区分することとしております。ご意見については、参考とさせていただきます。
60	小規模な自治体が生き延びていくためには、選択と集中をする必要があると思う。むかわ町は恐竜ワールド推進計画を立て、町の選んだひとつの柱として「恐竜・化石」が挙げられるので、その一環として博物館を大きくすることは理解できる。同時に図書館も大きくすることについては説明がないので、理解されないと思う。この先もむかわ町の人口が減少していく中で、図書館を（維持するならともかく）大きくすることは理解できない。	C	恐竜を含む古生物や地質学関係の蔵書を増やすなどして、図書館機能を拡大してまいりますのでご理解願います。

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
61	博物館ファンや地域の人々が博物館を盛り上げていく仕組みを作ってほしい。	B	町では、穂別稲里地区で発掘された、恐竜全身骨格化石（むかわ竜）の持つ、学術的・教育的・資産的・戦略的・産業的価値に着目し、町全体をステージとした「恐竜化石を活かしたまちづくり」を推進しています。 その施策の一つとして、交流人口拡大を目的とした、恐竜を核とした体験型旅行商品・体験学習の開発、ガイドの育成や恐竜関連グルメ等の開発を進めているとともに、国の地方創生推進交付金を活用して恐竜ワールド構想の推進母体となる組織の整備や恐竜関連グッズ等の開発、地域資源を活用した気運醸成やPR活動を進めることを予定しており、これらの取組による産業効果を町全体に波及させることをめざしております。 ご意見については、参考とさせていただきます。
62	「むかわ竜」の名称（通称）の再考と、総称の概念はあまりにも飛躍がある。地元との結びつきを大切に住民の活動を活かしてほしい。	C	「むかわ竜」の名称について、恐竜化石発見者の意向を尊重した名称であること、さらに恐竜化石が産出された多くの自治体で市町村名を冠した呼び名を使用していることから、通称を「むかわ竜」としてまいります。 なお、総称についての使用はいたしません。が、地元の結びつきに係るご意見については、参考とさせていただきます。
63	むかわ町にて発掘されたハドロサウルス科恐竜は世界的にも大発見で町だけに留まることなく、道や国に対して、補助金に留まらず、世界に発信できる宝として是非とも道立・国立としてコスト面での保証がほしいと思う。一度見た人が絶対に飽きることはないように、リニューアルシステム、世界に発信するものとして誇れる建物としてほしい。また、周辺の整備も力を入れてほしい。ハドロサウルス科恐竜に続く化石がまたれば、さらに盛り上がると思うし、タイミング的には、一日も早く建ててほしいが、もう少し後の方が良いのでは。あと場所はもちろん化石のふるさととしても産出している地域が当然だと思う。経済効果のためにも販売スペースもほしい。	C	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
64	今回、恐竜が発掘された場所は稲里であり、稲里には旧稲里中学校は数年しか活用できず廃校になったので、まだ新品同様であるので下見に来てほしい。校舎の前は全面芝生と駐車場にするとよい。また、発掘現場も近いため遊歩道を整備して見学コースとすべき。さらに、ホベツアラキリュウの発掘場所も遠くはない。フェイクが多い中で、これは「本物」の見学である。時間をかけてオープンすると良い。なお、合併特例債の使用は無しである。	C	<p>博物館活動としての収集・保管、調査・研究、教育・展示のそれぞれの活動は一連のものであり、効率良くかつ効果的に行っていくためには、各活動に関連した施設が一カ所に集約されていることが望まれます。すなわち、収蔵庫、研究室、体験学習室、展示室は、互いに隣接していることが理想となります。このことから今回の整備計画は、既存施設（化石学習館、現博物館）の活用および転用と、それに隣接した新たな展示棟の建設を予定しています。</p> <p>旧稲里小学校の校舎は、確かにむかわ竜やその他の化石の産地に立地しておりますが、既存施設から離れてしまうこととなり、その活用は現在のところ予定しておりません。</p> <p>博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。</p> <p>基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>
65	再整備後も博物館の正式名称は「穂別博物館」としてほしい。化石が発掘される場所は、町内全域ではなく、穂別地区に限定されており「穂別」の名前を前面に出すことも必要だと思う。博物館の名称に「穂別」をつけてPRすることで、「むかわ竜」のネーミングの件で納得がいけないという人にも納得してもらえるのではないかな。	C	博物館の名称の考え方に係るご意見については、参考とさせていただきます。
66	営利を目的とした施設にしてほしい。	C	<p>穂別博物館は、博物館法第18条の規定に基づき設置されており、同法第23条では、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならないとされております。これを受け、多くの博物館では最低限の維持管理費を少額徴収するなど、博物館法により設置されている博物館は、本来的には収益確保を目的としていない施設（教育施設）といえます。</p> <p>しかし、今回の計画では、物販・飲食・体験事業などの収益事業部門を包含した複合的施設として博物館運営を想定しており、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用を基本として、運営経費の削減を図っていくこととしております。</p>

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
67	町民には、さらに分かりやすい説明が必要ではないか。町民からもっと意見を引き出すことも必要。儲けを中心にできれば良い。	B	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
68	旧鷗川と旧穂別は地理的に40kmの隔たりがあり、今後も高齢化の進む両地区住民が協働するのは難しい現実がある。例えば、穂別地区は古生物化石の学術拠点として研究者の宿泊や子どもの体験学習への支援に努め、鷗川地区は恐竜の文化拠点としてアトリエ誘致や民芸品イベントなどに注力することで、トータルで「恐竜の町むかわ」を目指すのが良いと思う。	C	恐竜ワールド構想は、まち全体をステージとして展開していくこととしております。 ご意見については、参考とさせていただきます。
69	「むかわ竜」が現自治体の名を冠するという分かりやすさを優先し、「通称：むかわ竜」を受け入れるのが妥当と考える。発掘地に近い一部住民の想いは理解できるが、北大総合博物館の小林准教授のご尽力やNHKをはじめとするメディアのおかげで全国的な認知も深まっている。このまま全町民で「町の宝」を盛り上げていくのが正解だと信じている。	C	「むかわ竜」の名称について、恐竜化石発見者の意向を尊重した名称であること、さらに恐竜化石が産出された多くの自治体で市町村名を冠した呼び名を使用していることから、通称を「むかわ竜」としてまいります。
70	博物館を増設するのではなく、建物はそのままに、役場支所の中身を博物館と入れ替えるのはどうだろうか。現在の支所に博物館の機能を持たせ、博物館に支所の機能を持たせるという案である。支所の2階の床の一部を撤去すれば、恐竜（2体）・クピナガリュウ化石のレプリカは展示可能だと思う。また、講演会場に適した広い会場があり、炊事場を利用した宿泊研修も可能である。博物館を支所に移す欠点は、商店街の客が減少することや、化石にダメージを与えうる太陽光をどう遮るか、また、今の位置にあるからこそ集客があった飲食店からの反発があると考えられる。 （商店街の客を維持する案として、道路の空家の数軒をミニ博物館に作り直すのはどうだろうか）		床の耐久性の都合上、ご意見の内容については、現実的なものではないと考えます。

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
71	「むかわ竜」という名前がどの程度認知されているのかは分からないが、建設の時期が早いのではないかと。町民の理解が得られていないまま進める姿勢には否定的。建築しなくても、凸版印刷のVR技術で等身大の「むかわ竜」を展示する方法を使えば、初期費用がかかるだけで場所の確保もなくスッキリすみそうな気がする（ゴビサポートジャパンがレプリカ製作の最中だが…）。		「第8章 展示計画 8. 3」に記されているとおり、実物化石にこだわる展示をめざしています。 実物化石こそが過去の生命の証拠であり、レプリカや映像では伝わらない迫力、質感、実在感を見学者に伝えることができると考えています。 また、町内産の実物化石を豊富に所蔵していることが穂別博物館の強みであり、これら実物化石を展示することで、「ここにしかない」博物館をめざすものです。レプリカや映像のみの展示では、単なる作り物を寄せ集めた博覧会となってしまい、「本物」を展示することこそが博物館の使命であると考えておりますので、実物化石の重要性について、ご理解願います。
72	仮に建設したとして、維持費など年間のコストはどれぐらいなのか。運営の状況により、町民の税収は増えるのか。今後も町で（恐竜）化石が多く見つかったとき、展示スペース確保のためにまた増設するのか。現在よりさらにどれだけの・どのような業務内容の学芸員・職員・従業員が必要となるのか。	E	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。
73	博物館運営を民間主体にする案があったので、例えば運営を株式方式にするのはどうか。このような取り組みは、少なくとも私の範囲では存じ上げない。常に運営にシビアになり、結果として町の名前を売り込むことにもつながると感じる（株主優待はシシャモなど、鵜川地域と提携すると両地域のつながりも一層強くなるかもしれない）。	C	「第9章 事業手法の検討 9. 2」に記載されているとおり、PFI型は管理運営を株式会社をはじめとする民間事業者が担うことで、料金収入というインセンティブを生かしながら、民間のノウハウや創意工夫を最大限に発揮させることを見込んでおります。
74	地球体験館を今後解体する際は、アスベスト飛散には留意してほしい。	D	地球体験館にアスベストは使用されておりません。
75	一般のグッズ販売のほか、バンダイナムコのUFOキャッチャーや、500円を入れると20分電動クリーニング工具を使ったクリーニング体験ができる等の企画があると面白い。	C	グッズ販売以外に、UFOキャッチャーやクリーニング体験ができる企画については、ご意見の趣旨を踏まえ、検討してまいります。

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
76	<p>博物館建設は早急には行わず、町内外から「せっかく恐竜の全身骨格化石が出たのだから、博物館を作っていつでも見られるようにすればいいのに」という声を長い時間かけて多く集めれば、いざ着工する時にも町民の同意を得やすいと思う（建設案を温めておくのは「あり」だと思います）。どういうコンセプトで建てるか、も考える必要があると思う。</p> <p>「むかわ竜」たちは7000万年以上ものあいだ埋まっていたので、10年～20年遅くなったところで問題ないと思うし、それだけ時間をかけるほうが、古生物化石にも、町のためにも、北海道・国のためにも幸せだと思う（7000万年に比べて10年～20年は問題ない・短いというのは半分ジョーク。しかし、今の時代は余裕がなく、すぐに結果を求めたがる時代だからこそ、じっくり議論することが必要ではないか。「時代に逆行する、じっくり長い議論をする」という新たな町のモデルを打ち出してみてもいいのでは。鈴木章先生の研究も、何十年もの時間をかけて、ノーベル賞に結びついたのであるから）。</p>	D	<p>「第10章 事業スケジュール（案）」に記載しているとおり、基本計画では平成34年度のグランドオープンを目指しているところですが、町民説明会や出前講座を開催するなど、町民の皆様にご説明を行った上で事業を進めてまいります。</p>
77	<p>計画方針を読んでも建物自体がどんな物かも想像できない。ましてや建設後の運営コストも分からない。</p>	E	<p>博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。</p> <p>基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p>
78	<p>博物館の使命として、収集・保存・研究の場があると思っている。</p> <p>小林・佐藤（たまき）両先生の姿から、穂別の博物館が世界に発信できる、学生さんも含めた研究の場であることを望む。</p> <p>そして、私の様な化石（生物）好きにとって、博物館は、ひとえに展示の魅力に尽きると思う。海と陸ゾーンに分かれ、この地から出た本物に接する魅力である。恐竜を中心に海棲は虫類も含めた異次元の空間に「想う」ことが大切。「想う」ことは人それぞれだと思うが、そのことを想像できる場所となしてほしい。</p> <p>特に子供たちに、見ることを含めた体験をしてもらいたい。何回も足を運んでも飽きることのない展示物の変化を望む。</p> <p>そして、建物ができた後の維持管理コストの問題である。多くの意見をもとに、検討していただけることを望む。</p>	C	<p>「第7章 施設計画 7. 2. 2」に記載しているとおり、現穂別博物館の施設は、展示機能を新設する展示棟へと移設し、研究および体験学習用に変更改修することとしております。</p> <p>「第7章 施設計画 7. 1. 3」に記載しているとおり、利用主体は特に子どもや家族連れをメインターゲットとしています。そのためには、子どもたちが興味を抱き、理解を深め、様々な体験ができる施設とすることをめざしています。</p> <p>また、「第8章 展示計画 8. 3」に記載しているとおり、デジタル技術の導入や、ハンズオン展示などによる五感を使って体感できる展示をめざしてまいります。</p> <p>今後、実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p>

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
79	<p>整備方針、土地利用計画、事業手法等に様々な検討がされている事案に関しては、地域資源（宝）を地域のために活用しようと熟考されている部分が多くすばらしいと思う。</p> <p>しかしながら、この恐竜化石を活かしたまちづくり計画には、莫大な予算がかかると示されており、それを町単費で支出すると聞いている。そうした場合、他に必要な予算（例えば、福祉介護の分野、または子育てに関する分野、そして期間産業である第一次産業の分野等）はどうなるのか。今まで以上に必要とされる分野であると思われる部分が縮小あるいは削減される事が非常に懸念される。現在、この地域で頑張っている人たち、生活している人たちが窮屈になるようでは意味がないと思う。また、仮に完成したとして、その後の維持費・管理費はどうなるのか。一説では建設費の3倍以上かかると聞いている。完成したが、維持できない施設の話をいくつも聞いているので、完成後、五カ年の維持・管理費を大まかで構わないので知りたい。</p> <p>そして最後にもう一つ、今回の恐竜化石の名称について、非常に納得のいかない部分がある。「むかわ竜」という名称そのものに不満ということではなく、それを決定するまでの経緯ややり方が不満である。本当に町民（特に穂別地区の住民）の想いや意思をくみ取った決め方なのか。名称決定権は発見者にあるが、その方の想いも含め、長い間穂別の方々が守ってきた、受け継いできた事を考えての経緯をたどったのか。私はそうは思えない。もし、このまま「むかわ竜」でいくなら、町民の納得を得られる形（例えば説明会など）を必ず行ってほしい。</p>	C	<p>博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。</p> <p>基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。</p> <p>また、「むかわ竜」の名称について、恐竜化石発見者の意向を尊重した名称であること、さらに恐竜化石が産出された多くの自治体で市町村名を冠した呼び名を使用していることから、通称を「むかわ竜」としてまいります。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>
80	<p>専門職ではないが、子ども、高齢者をはじめ、利用しやすく、流行を取り入れ、穂別の森林も活かされるよう願う。</p>	B	<p>「第6章 整備方針検討 6.1.2」に記載しているとおり、博物館周辺エリア再整備に向けた基本方針「むかわ町が世界に誇る化石資源を核とした情報発信・体験拠点の形成」に基づき、施設群の整備を進めてまいります。</p>
81	<p>新しく色々な分野から考えていくのは大変なことではあるが、まず第一にどこから化石が発見されたのかを重点に置いて考える必要がある。むかわ竜と名付けたことで素人でもおかしいとたくさんの人たちが言っている。穂別稲里で発見されたのにどうしてむかわ竜と名付けているのか。穂別の人には不思議で仕方ないと思う。そんな中で穂別に博物館を建設せず、鶴川で作ったら、大きな問題となる。穂別で発見された物なのだから穂別で建設するべきである。鶴川に観光施設がほしいのであれば違うものを考えるべきである。そうしなければ、今までホベツアラキリュウなどに関わってきた職員は無念でないだろうか。穂別の森林内での施設がいいと千歳や札幌や恵庭などと言ってくださる方がたくさんいる。周りの人も意見交換の場を作っているのだから、穂別の方の意見をしっかり聞いてほしい。</p>	D	<p>「むかわ竜」の名称について、恐竜化石発見者の意向を尊重した名称であること、さらに恐竜化石が産出された多くの自治体で市町村名を冠した呼び名を使用していることから、通称を「むかわ竜」としてまいります。</p> <p>ご意見については、参考とさせていただきます。</p>

6 その他のご意見について（86件）			
No	意見の内容	区分	意見に対する町の考え方
82	恐竜の通称については、恐竜の里「穂別」を入れるなどインパクトのあるものが必要だ。	D	「むかわ竜」の名称について、恐竜化石発見者の意向を尊重した名称であること、さらに恐竜化石が産出された多くの自治体で市町村名を冠した呼び名を使用していることから、通称を「むかわ竜」としてまいります。
83	穂別図書館は指定管理にしないでほしい。	C	今後、調査・研究を進めてまいります。
84	町民に意見募集されたことは結構なことと思う。今後も説明会の開催を含め継続願う。	C	基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。 ご意見については、参考とさせていただきます。
85	合併以降、穂別図書館はむかわ町立図書館としての役割を担ってきた。今回の再整備で博物館の一部となり、図書館条例が廃止になった場合、図書館に関する法律の優遇措置が受けられなくなり、取りやめにしなくてはならないサービスが多く出てくる。この計画書には穂別図書館に関する考えは書かれていないが、今までどおり図書館法に基づく図書館の役割は守られるのか。計画全体における穂別図書館の位置づけについて教えてほしい。	C	今後、調査・研究を進めてまいります。
86	この博物館計画を進める中で感じるのが、町の博物館への動きと、町民の博物館に対する意識のズレを大きく感じる。 博物館建設を進めたい町と、博物館建設にあまり関心が無い大多数の住民がいる中で、町が果たすべき行動は、博物館建設に関する説明であると考えている。町長自ら、住民に恐竜博物館の重要性と将来性を町民に対して説明するとともに、農業や林業、漁業、その他事業を営む方々にも新たなビジネスチャンスがあるということを訴えかけ、町全体の意識と気運をより高めていくことが、町がめざす、博物館建設による町の活性化につながると思う。 広報むかわ、むかわ町HPだけで意見を募集するのではなく、将来的に町税を納めていく若い人たちに積極的に声をかけて、町民と対話しながら博物館計画に対する町民の不安をぬぐいながら進めていく責任があると思う。	C	博物館周辺エリアの再整備は、国や道の各種補助金等を最大限活用することで、町の財政負担を可能な限り抑えながら進めてまいります。 また、未来のむかわ町を担っていく若い世代の声にも耳を傾けながら、事業を進めるために、基本計画の内容や再整備に係る財源フレーム、維持管理費等の詳細については、今後実施を予定している町民説明会や出前講座の場を活用して、説明を行ってまいります。 加えて、恐竜ワールド構想の推進による他産業への波及効果等についての説明も行ってまいりますので、ご意見については、参考とさせていただきます。

※ご意見については、受理日順に掲載しております。

※提出期限以降に、提出があったご意見については、参考意見として整理しております。

恐竜ワールド戦略室

電話：45-2118

メール：kyoryuworld@town.mukawa.lg.jp